

第十二條 召集命令并ニ召集票ハ左ノ様式ニ依ルヘシ

召集命令書式

非常召集命令書

何課署警部何名巡查何名(課署以外ナルトキハ)何々所(課署以外ナルトキハ)召集ス

年月日

臺灣民政支部

課署名印

封皮面

(△印ハ朱書)

表

非 [△]	臺灣民政支部
常	何々署
召	御中
集	

裏

臺灣民政支部
課所署名

電信ヲ以テ命令スルトキモ前項同文トス

豎曲尺三寸五分 横全一寸三分

表

非 [△]	住所宿舍名
常	官職氏名
召	(何々所)
集	

裏

臺灣民政支部
課署名印

課署以外ナルトキハ此所ニ召集地點ヲ朱記スヘシ

○臺灣民政支部警察假勤務法

(明治二十八年十月二十二日通知
明治二十八年十一月一日施行)

第一條 警察署警察分署詰巡查ヲ分テ内勤外勤ノ二トス

第二條 内勤巡查ハ署長ノ指揮ヲ受ケ内勤一切ノ事務ニ服スヘシ

第三條 署長以下内勤員ハ日勤トシ其執務時間ハ支部長又ハ所屬出張所長ノ定ムル處ニ依ルヘシ

第四條 外勤巡查ハ分テ甲乙ノ二部トシ一晝夜交代ヲ以テ專ラ外勤事務ニ服スヘシ

第五條 警部一名アル署ニ於テハ警部ハ日勤トシ專ラ外勤監督ニ從事スヘシ但内勤事務多忙ナルトキハ之ヲ補助セシムルコトヲ得

第六條 警部二名以上アル署ニ於テハ適宜甲乙各部ヲ分擔シテ前條

ノ事務ニ服シ猶餘員アルトキハ内勤事務ノ主任ニ充ツルコトヲ得

第七條 巡查部長ハ甲乙二部ニ分屬シ上官ノ命ヲ受ケ專ラ外勤監督ニ従事スヘシ

第八條 當直員ハ徹直トシ署所在地ハ晝夜間四回以上巡回スヘシ

第九條 巡回ハ晝間二名以上夜間四名以上同列スヘシ村落巡回ハ六名以上トシ警部若クハ巡查部長之ヲ引率スヘシ

第十條 非番相番ノ者外出セントスルトキハ行先ヲ當直巡查部長ニ届出ヘシ若往復三時間以上ヲ要スル地ニ到ラントスルトキハ當直巡查部長ヲ經テ署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 各警察署及警察分署ニ於ケル勤務細則ハ警察署長之ヲ定

メ出張所長ヲ經テ支部長ノ認可ヲ受クヘシ

第五編 租稅會計

○官租徵收ニ關スル諭告 (明治二十八年九月二十八日 日令第十號)

本總督各地方官廳ニ命スルニ官租徵收ノ事及其徵收ノ納期收納場所
其他ノ條規ヲ告示スルコトヲ以テシタリ依テ各官田ノ租戶佃戶等ハ
該地方官廳ノ告示スル所ニ遵ヒ各其租額ニ前年ノ領收證書ヲ添ヘ期
日ニ違ハス指定ノ場所ニ納入スヘシ若シ納期ヲ過キテ納ムルカ又ハ
督促ヲ受ケテ尙ホ完納セサルカ又ハ故意ニ隱蔽シテ脫租ヲ謀リタル
者ハ左ノ罰則ニ照シ之ヲ處分スヘシ

罰則

第一條 納期ヲ過キテ完納シタルトキハ納額ノ二割ニ當ル滯納過怠

金ヲ徵収ス

第二條 督促ヲ受ケテ尙ホ十日以内ニ完納セサルトキハ納額ノ五割ニ當ル滯納過怠金ヲ徵収ス但此場合ニ於テハ滯納者ノ財産ニ就キ納額及過怠金額ヲ見積リ其全部若クハ一部ヲ公賣シ納額及過怠金ニ充テ殘餘アルトキハ之ヲ納人ニ還付ス

第三條 故意ニ隱蔽シテ脱免ヲ謀リタルキハ其財産ノ全部ヲ沒収ス

○全譯文

臺灣總督海軍大將伯爵樺山 爲剴切曉諭事照得本總督諭飭各地方官廳徵收各項官租並使其便宜告示納期分設課館等章程准

爾各等租戶佃戶凜遵該地方官廳所告示屆期各自到課館繳驗完納並同滯舊年完單毋得混雜合行出示曉諭爲此示仰爾等知悉務須踵來投徵絲毫不准帶欠遲悞倘有逾限來完或催而無完或故意隱實謀脫者一經查覺即照左開罰款章程分別究辦姑不寬貸其各凜之慎之毋違特示

罰款

第一條 逾限來完者應罰加租二成

第二條 過催之後再過十日倘未完納者查出該租戶或佃戶資產案算抵租並加其五成清完如有剩餘還給

第三條 故意隱實謀脫者全徵該租戶或佃戶資產一切充公

○官租收納取扱心得 (明治二十八年九月二十八日訓第七號)

第一條 官租トハ從前清國政府ニ於テ收納セル抄封田學田官莊田隆恩田息莊田義渡田等ノ大租若クハ小租ヲ云フ

但學田義渡田ノ分ハ官租收納ノ際收納セシムルト雖之ヲ收入ニ立テス地方廳ニ於テ保管シ總督府ニ其金額穀數小租戸佃戸ノ姓名等ヲ報告スヘシ

第二條 大租ノ納人ハ其田ノ小租戸トシ小租ノ納人ハ其田ノ佃戸トス但本年ハ適宜舊慣ニ依ルコトヲ得

第三條 收納着手ニ先チ豫メ告示ヲ發シ官租ノ納期日及從來ノ慣例ニテ前期後期ノ別アルモノハ先ツ前期ノミヲ收納スルコト並ニ納

人ナシテ納入ノ時前年ノ領收證書ヲ添付セシムルコトヲ達スヘシ

第四條 從前石代ノ定價ニ準シテ收納セシモノハ定價ノ割ヲ以テ市價ニ準シテ收納セシモノハ市價ノ割ヲ以テ收納セシムヘシ

但市價ハ前年ノ例ニ依ル

第五條 收納スヘキ貨幣ハ總テ日本銀貨又ハ兌換銀券ヲ以テ納付セシムヘシ

但一里以下ノ端數ハ四捨五入ノ算法ニ據ル

第六條 本地通用ノ小錢ヲ以テ拂込ムモノアルトキハ拾錢以上ハ之ヲ拒ムコトヲ得

第七條 納期日ヲ過キテ官租ヲ納メタル者ハ納額ノ外別ニ滯納過怠

金トシテ納額ノ二割ヲ納付セシムヘシ

第八條 納期日ヲ過キテ完納セザルモノアルトキハ督促令狀ヲ發スヘシ督促令狀ヲ發シタル日ヨリ十日以内ニ尙官租ヲ官納セザルトキハ滯納者ノ財産ニ就キ納額及滯納過怠金五割ニ當ル分ヲ見積リ没收シ評價ヲ以テ之ヲ賣却スヘシ

但賣却代金納額及滯納過怠金ニ充テ殘餘アルトキハ滯納者へ還付ス

第九條 前條ノ場合ニ際シ滯納者ニ於テ納額及滯納過怠金五割ヲ完納シタルトキハ直ニ財産ノ没收ヲ解クヘシ

第十條 親戚隣佑質取主及其他第三者ヨリ代納者アルトキモ亦前條

ノ例ニ依ル

第十一條 官租納入ノ義務アル者故意ニ隱蔽シテ脱免ヲ謀リタル者ハ其財産ノ全部ヲ没收シ尙政府ノ佃戸タルコトヲ禁スヘシ

第十二條 收納掛員ハ地方廳ニ於テ之ヲ命シ便宜シ地ニ出張所ヲ設ケ巡廻シテ收納事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

但巡廻事務ヲ取扱フトキハ豫メ各庄ノ長ニ巡廻ノ期日ヲ達シ置クヘシ

第十三條 收納掛員中ニ收入主任官ヲ置キ分任收入官吏ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十四條 收入主任官ニ於テ官租ノ納付ヲ受ケタルトキハ官租臺帳

及納人ヨリ提出セル前年ノ領收證書ヲ照シ其符合ヲ認メテ之ヲ領收シ別紙領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ

但納人ヨリ收ムル所ノ金額田種又ハ穀數等ニ疑義アルトキハ假ニ之ヲ領收シ假領收證書ヲ發シ其旨ヲ納人ニ告知シ置クヘシ

第十五條 延納滯納脱租等ノ違犯ニ係ル處分ハ分任收入官又ハ收入主任官ニ於テ即決執行スルモノトス

第十六條 收入主任官ニ於テ前條ノ納金ヲ領收シタルトキハ可成的速カニ分任收入官吏ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

但金櫃ヲ回送スルトキハ憲兵守備兵又ハ警察官ノ護衛ヲ請求シ相當ノ保管ヲ爲スヘシ

(百九十ノ次)

何堡何庄小租戶(又ハ佃戶)姓名納

何石何斗何升

ヤノ割

何々出張所收入主任官氏名 印

第 (何) 號

二十八年 度前(後)期

何堡何庄小租戶(又ハ佃戶)姓名納

一金何程

抄封田又ハ何々田大租(又ハ小租)何石何斗何升
此代金定價(又ハ時價)一石壹圓拾七錢ノ割

明治二十八年 月 日

領主 主任 收入官

檢印

主任 收入官

檢印

第 號

二十八年 度前(後)期

何堡何庄小租戶(又ハ佃戶)姓名納

一金何程

抄封田又ハ何々田大租(又ハ小租)何石何斗何升
此代金定價又ハ時價一石壹圓何々ノ割

右 證 領 收

明治二十八年 月 日

何々出張所收入主任官氏名

印

主任 收入官

檢印

○官租收入石代標準ノ件

(明治二十八年十月二十三日
臺北縣へ指令)

財第五號

本縣直轄各堡ノ官租徵收ノ儀ハ日令第十號官租收納取扱心得書ニ依リ着手致サセ候處同心得書第四條ニ依リ石代金ヲ定ムル場合ニ當リ前年ノ市價不分明ナルモノ有之右不分明ナルモノニ限り昨年六月ヨリ本年九月マテノ平均價格ヲ以テ相定メ候方妥當ト存候得共平均價格ニ付テモ場所ニ依リ相違有之候ニ付當大稻埕ノ平均價格一圓八十六錢五厘ヲ標準トシ其一割弱ヲ減シタルモノ即チ粗一石ニ付(舊來當地ニ公稱セル一石トス)石代金一圓七十錢ト相定メ各堡一律ニ收納致可然哉トノ伺ニ對シ左ノ通指令アリタリ

官租收納上石代金ニ關シ明治二十八年十月二十二日付財第五號申出ノ件ハ申出ノ通取計フヘシ

○臺灣總督府諸收入收納取扱規程

(明治二十八年十月十三日訓第十一號)

第一條 民政局所屬官衙ニ於テ收納スヘキ稅外ノ諸收入ハ此ノ規程

ニ依リ取扱フヘシ

第二條 各官衙ノ長ハ諸收入調定元帳ヲ備ヘ該收入ヲ調定シ適宜納

期日ヲ定メ各納人ニ對シ一號書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但納人

ナシテ隨時即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ

要セス

第三條 各官衙ノ長ハ部下ノ官吏ニ諸收入收納ノ事務ヲ分掌セシム

ルコトヲ得但各官衙ノ長ハ自ラ其監督ノ責ニ任スヘシ

第四條 各官衙ニ於テ臨時費支出及整理規程第十三條ニ準シ別ニ收入分任官ヲ置クコトヲ得

第五條 納入告知書ハ收入分任官ニ送付シ之ヲ納人ニ交付セシムヘ

シ但第二條但書ノ場合ニ於テハ其納額ヲ收入分任官ニ通知スヘシ

第六條 收入分任官ハ前條ノ送付又ハ通知ヲ受ケタルトキハ收入簿

調定濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納人ニ交付ス

ヘシ

第七條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシ

ムヘシ

第八條 收入分任官ハ納金ヲ其納期限内ニ完納セサル者アルトキハ直ニ督促ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ督促ヲ爲スモ尙完納セサルカ又ハ猶豫等ヲ申出テ之ヲ納付スルノ資力ナシト認メタルトキハ其身代ノ實況ヲ取調ヘ調定官ニ報告スヘシ

第九條 調定官ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ收入分任官ナシテ速ニ相當ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十條 收入分任官第七條ノ納付ヲ受ケタルトキハ納入告知書ニ照シ收入簿收入濟額欄内ニ其金額ヲ登記シ第一號書式ノ領收證書ヲ

納入ニ交付スヘシ但第二條但書ノ納金ヲ收入シタルトキハ之ヲ調査シ收入簿收入濟額欄内ニ其金額ヲ登記シ第二號書式ノ領收證書ヲ納入ニ交付スヘシ

第十一條 收入分任官ニ於テ前條納金ヲ領收シタル現金ハ左ノ制限ニ從ヒ可成的速ニ之ヲ取纏メ第三號書式ノ拂込書ヲ添ヘ調定官ヲ經テ總督府ノ陸軍局金櫃部分任收入官吏ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第一 收入金高五拾圓未滿ハ每一ヶ月

第二 收入金高百圓未滿ハ毎十日

第三 收入金高百圓以上ハ毎五日

但運輸利便ノ地ハ其翌日限り

第十二條 現金ノ送付ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ憲兵
守備兵若クハ警察官ノ護衛ヲ請求シ相當ノ保管ヲ爲スヘシ

第十三條 收入分任官ハ收入簿又ハ其他ノ報告ニ據リ第四號書式ニ
準シ收入報告書ヲ調製シ翌月五日迄ニ其地ヲ差立テ調定官ヲ經テ
之ヲ總督府陸軍局金櫃部ノ分任收入官吏ニ送付スヘシ

一	縣	堡	庄(街)	何	某	納
(項)						(目)

島廳 收入分任官

(支廳)(支部)(出張所)(島廳)收入分任官印

納 入 告 知 書

第 號	明治	年度	縣 堡 庄(街)何 某 納
臨 時	(款)軍 資 金	(項)	(目)
總督府、縣、支廳、支部、出張所、島廳 收入分任官			

元帳
割印

一金

但

右明治 年 月 日限リ(何々)堡出張所ニ納付スヘシ

明治 年 月 日 縣知事(支廳長)(支部長)(出張所長)(島司)印

領 收 證 書

第 號 明治 年度 縣 堡 庄(街)何 某 納

縣、支廳、支部、出張所、島廳

一金

收入主任
收入分任官
印

但

右

明治 年 月 日 縣(支廳)(支部)(出張所)(島廳)收入分任官印

別

符

第 號 明治 年度

一金

但

右證領收

明治年月日

第 號 明治 年度

一金

但

右證領收

明治年月日

領 收 證 書

現 金 拂 込 書

第 號 明治 年度

一金

右拂込候也

明治年月日

八込拂

領 收 證 書

第 號 明治 年度

一金

右領收候也

明治年月日

陸軍省所管 明治 年度 歲入 臨時部 收入報告書 第 號

(第四號書式)

科 目			事 由	調 定 濟 額						收 入 濟 額						不 納 缺 損 額						收入未濟額			現金拂込仕譯	
款	項	月		本月分			前月迄累計			本月分			前月迄累計			本月分			前月迄累計			本月分				
				圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘		

(號外)

何々收入簿

(百九十六ノ次ノ五)

告知書												
月	日	番	號	調	定	額	收入	濟	額	事	由	納人住所氏名

- (考 備)
- 一 規程第二條但書通知ヲ受ケタルトキハ其通知ノ月日ノミヲ記シ告知書番號ハ記入スルニ及ハス
 - 一 事由欄内ニハ欠損又ハ過怠金ノ事由金額等ヲ詳記スヘシ
 - 一 一人ニシテ數人ノ代納ヲナシタルトキハ何ノ誰外何人ト記入スヘシ

(號 外)

官租(又ハ砂金採收鑑札料)調定元帳

(百九十六ノ次ノ六)

納人告知書	番號		納期	調定額	事	由	調定官認印 收入分任官認印	納人住所氏名
	月	日						

- (考 備)
- 一 第四欄事由ノ欄内ニハ過怠金ノ生シタル事由金額ヲ記入スヘシ
 - 一 調定官ニ於テ金額ヲ調定シタルトキハ相當欄内ニ認印シ之ヲ收入分任官ニ送附シ規程第五條ノ通知ト見做スヘシ

○民政局所屬官衙會計事務規程

(明治二十八年九月十六日
訓第七號)

第一條 此規程ノ民政局所屬官衙トハ民政局長ノ監督ニ屬スル縣廳、同支廳、民政支部、同出張所、稅關其他特ニ現金前渡分任官ヲ置ク官衙ヲ總稱ス

第二條 所屬官衙ニ會計課ヲ置キ當該官衙ノ金錢物品ノ出納糧食建築運搬其他會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 會計課ニ左ノ職員ヲ置ク
課長

課長ハ現金前渡分任官ヲ以テ之ニ充ツ但所屬官衙ノ長又ハ他ノ高等官ヲ以テ會計課長ニ充ツルトキハ別ニ現金前渡分任官ヲ置

クコトヲ得

課員

課員ハ課長ノ官等身分以下ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 課長ハ其所屬官衙ノ長ノ指揮監督ニ屬シ課務ヲ整理シ管掌ノ事務ニ就テハ其責ニ任ス

會計課長ハ會計上ノ法律規則ニ就キ所屬官衙ノ長ト見解ヲ異ニスルトキハ直ニ民政局長ノ指揮ヲ求ムルコトヲ得

第五條 民政局經理課長ニ於テ所屬官衙ノ會計整理上ノ必要ニ依リ會計課長ニ推問スルコトアルトキハ直ニ之ニ應スヘキモノトス

第六條 民政局長ハ經理課長又ハ其他ノ責任アル官吏ニ命シテ金櫃

物件及帳簿ヲ検査セシムルコトアルヘシ

經理課長又ハ其他ノ責任アル官吏ニ於テ検査ノ結果ニ依リ違法ノ事實ヲ發見シタルトキハ事重大ナルモノハ直ニ民政局長ノ指揮ヲ求ムヘク其他ハ詳細報告スヘシ

第七條 會計課長ハ毎月一回以上事務ノ成績及其地ニ於ケル給養上ノ便否得失ヲ民政局長ニ詳細申報スヘシ

第八條 所屬官衙ノ長又ハ會計課長ノ意見ニ依リ便宜會計課中ヲ分課シテ其主任ヲ定ムヲ得ルト雖其主任ハ會計課長ノ指麾下ニ屬スルモノトス

第九條 民政局長及民政局經理課長ハ此規則施行ノ責ニ任シ陸軍戰

時給與規則臨時費支出及整理規程其他ノ法律規則ノ範圍内ニ於テ
細則若クハ手續ヲ定ムルコトヲ得

所屬官衙ノ長ハ會計上常ニ民政局長及經理課長ト協同シ事務ノ進
捗ヲ圖ルト同時ニ會計法規ヲ確實ニ履行セシムルコトヲ勉ムヘキ
モノトス

第十條 會計課長ハ現金前渡分任官ノ資格ヲ以テ職務上必要アルト
キハ直ニ陸軍局監督部長又ハ金櫃部長ニ稟議スルヲ得ルト雖其文
書ハ凡テ民政局經理課長ヲ通過スルヲ要ス

附則

第十一條 會計課ヲ置カス會計掛ヲ置クトキハ此規程ニ於テ會計課

長ノ職務ニ屬スルモノハ凡テ會計掛長ニ屬スルモノトス

○臺灣總督府申請費用取扱方

(明治二十八年七月十日
臺灣事務局總裁通牒)

臺灣總督ヨリ申請ノ事項ニシテ費用ニ關係アルモノハ臺灣事務局ヨ
リ陸軍省ニ移シ陸軍省ヨリ之ヲ主務省ニ協議シ其ノ細目ヲ調査シ之
ヲ處分シ處分ノ後陸軍省ヨリ之ヲ臺灣事務局ニ報告ス

○各支部及其他ノ官衙ニ於ケル分任官指定手續

(明治二十八年九月三日
民政局長決裁)

第一條 各支部及其他ノ所屬官衙ニ於テ臨時費支出及整理規程第十
一條ニ依リ分任官ヲ置ク必要アルトキハ分任官タルヘキ者ノ官氏

名ヲ具シテ其指命ヲ民政局長ニ申請スル事
已ニ定メタル分任官ヲ變更スルトキ亦同シ

第二條 民政局長ハ前條ニ依リ之ヲ指命シタルトキハ之ヲ監督スル
官吏(即チ支部長若クハ其他ノ官衙ノ長)ハ直ニ該分任官カ現金出
納上ニ用フル印鑑三葉ヲ民政局長ニ差出サシムル事

第三條 民政局長ニ於テ前條ノ印鑑ヲ受取タルトキハ臨時費支出及
整理規程第十二條ニ依リ其分任官ヲ監督スル官吏ノ官氏名、分任
官ノ官氏名、就職ノ月日ニ該分任官ノ印鑑一通ヲ添付シ陸軍大臣
ニ届ケ出ツルト同時ニ右ノ事項ヲ監督部ニモ移牒シ且印鑑一通ヲ
送付スル事

參照

臨時費支出及整理規程拔萃

第十一條 分任現金前渡官吏ノ取扱金額ヲ分割シ又其分割シタル金額ヲ尙分割シテ
取扱ハシムルモノヲ分任官トス

第十二條 分任現金前渡官吏及前條分割セル現金ノ取扱ヲ爲サシムル者ノ官氏名ハ
順序ヲ經テ陸軍省ニ届ケ出ツヘシ分任收入官吏モ亦同シ

○臺灣電信局收入金取扱規程

(明治二十八年十一月十二日
日令第三〇號)

第一條 臺灣電信局ノ電報ニ係ル諸收入ハ當該電信局ノ收入官吏ヲ
シテ領收セシムルモノトス

第二條 臺灣電信局ノ收入ハ遞信大臣官房財務課長ヲシテ之ヲ監督セシムルモノトス

第三條 收入官吏ハ毎日領收シタル現金ヲ取纏メ收入金振替送金證(第一號書式)ヲ添へ所在地ノ陸軍金櫃部ニ送付シ其領收證書ヲ領置スヘシ

金櫃部ハ所在地外ナルトキハ前項送金證ノ外第二號書式ニ從ヒ振替送金證ヲ作り之ニ現金ヲ添へ其他ノ部隊ニ交付シ其領收證書ヲ領置シ又第一號書式ノ送金證ハ即日當該野戰金櫃部ニ送付シ之ニ對スル振替送金領收證ノ送付ヲ受ケタルトキハ前ニ領置シタル領收證書ハ之ヲ當該野戰金櫃部ニ送付スヘシ

第四條 收入官吏ハ收入簿(二十六年大藏省令第三十二號第十一書式)及現金出納簿(二十六年大藏省令第三十二號第十一書式)ヲ備へ收入金ヲ記帳整理スヘシ

第五條 收入官吏ハ一ヶ月毎ニ第三條ノ領收證書(金櫃部又ハ出納官吏ノ領收證書ヲ云フ)ヲ取纏メ拂込書(二十六年大藏省令第三十二號第三號書式)ヲ添へ中央金庫(以下單ニ金庫ト稱ス)ヘ送付スヘシ

第六條 現金出納簿ハ現金ヲ領收シタルトキ受ノ記入ヲ爲シ金庫領收證ノ到達シタルトキ拂ノ記帳ヲ爲スモノトス

現金出納簿ハ毎年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ畢ル但所屬年度ヲ摘要ニ記入スルスルハ妨ケナシ
收入簿ニ於テ電報料ハ郵便電信收入ノ項海外電報料ノ目ヲ以テ整

理スルモノトス但所屬年度ヲ以テ帳簿ヲ區分ス

第七條 收入官吏ハ毎月收入報告書(二十六年大藏省令第三十二號第四號書式)ヲ調製シ翌月

五日迄ニ發局之ヲ遞信大臣官房財務課長ヘ送付スヘシ

收入報告書中拂込濟額ハ金庫領收證書ノ到達シタルモノヲ掲ケ金庫ヘ拂込ノ手續ヲ爲スモ領收證書ノ到達セサルモノハ拂込未濟額ニ掲クルモノトス

第八條 收入官吏ノ會計検査院ヘ收入ヲ證明スヘキハ同院ニ於テ定メタル稅外諸收入證明規程ニ據ルヘシ但現金出納計算書ハ翌年度四月三十日迄ニ收入計算書ハ翌年度八月十五日迄ニ發局遞信大臣官房財務課長ニ送付スヘシ

第九條 前條證明上ニ就キ收入官吏外當該電信局ノ首席官吏(首席官吏ナルキトハ)次席ノ官吏(次席ノ官吏)ヲシテ收入官吏ノ現金出納計算書ハ現金出納簿及拂込

未濟現存額ニ收入計算書ハ收入簿ニ照合シ其符合ヲ認メタル保證書ヲ作ラシメ之ヲ該計算書ニ添付スヘシ但該電信局ニ於テ之ヲ照合スヘキ收入官吏外ノ官吏ヲキトキハ其事實ヲ遞信大臣官房財務課長ニ報告スヘシ

第十條 收入官吏交替ノ際在職中取扱ヒタル收入金ヲキトキハ會計規則第九十九條ノ計算書ヲ差出スニ及ハサルニ依リ其旨遞信大臣官房財務課長經由會計検査院ニ報告スヘシ

第十一條 收入官吏交替ノ際後任者ヘ事務引繼ヲ爲シタルトキハ其

引繼年月日ヲ遞信大臣官房財務課長經由會計検査院ニ報告スヘシ

第十二條 收入官吏轉免死亡等ニ依リ交替シタルトキハ二十三年大

藏省訓令第五十四號并ニ二十六年大藏省訓令第七十九號ニ準シ取

扱フヘシ但二十六年大藏省訓令第七十九號中長官ノ事務ハ電信局

詰收入官吏外ノ官吏之ヲ取扱フヘシ

第十三條 會計規則第九十一條第一項ノ検査員ハ當該電信局首席官

吏(首席官吏収入官吏ナ
ルトキハ次席ノ官吏)ニ命ス

第十四條 前條ノ検査ヲ施行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ

自身検査ヲ受クル能ハサルトキノ代理官ハ當該電信局ノ首席官吏

(首席ノ官吏収入官吏ナ
ルトキハ次席ノ官吏)ニ命ス

附 則

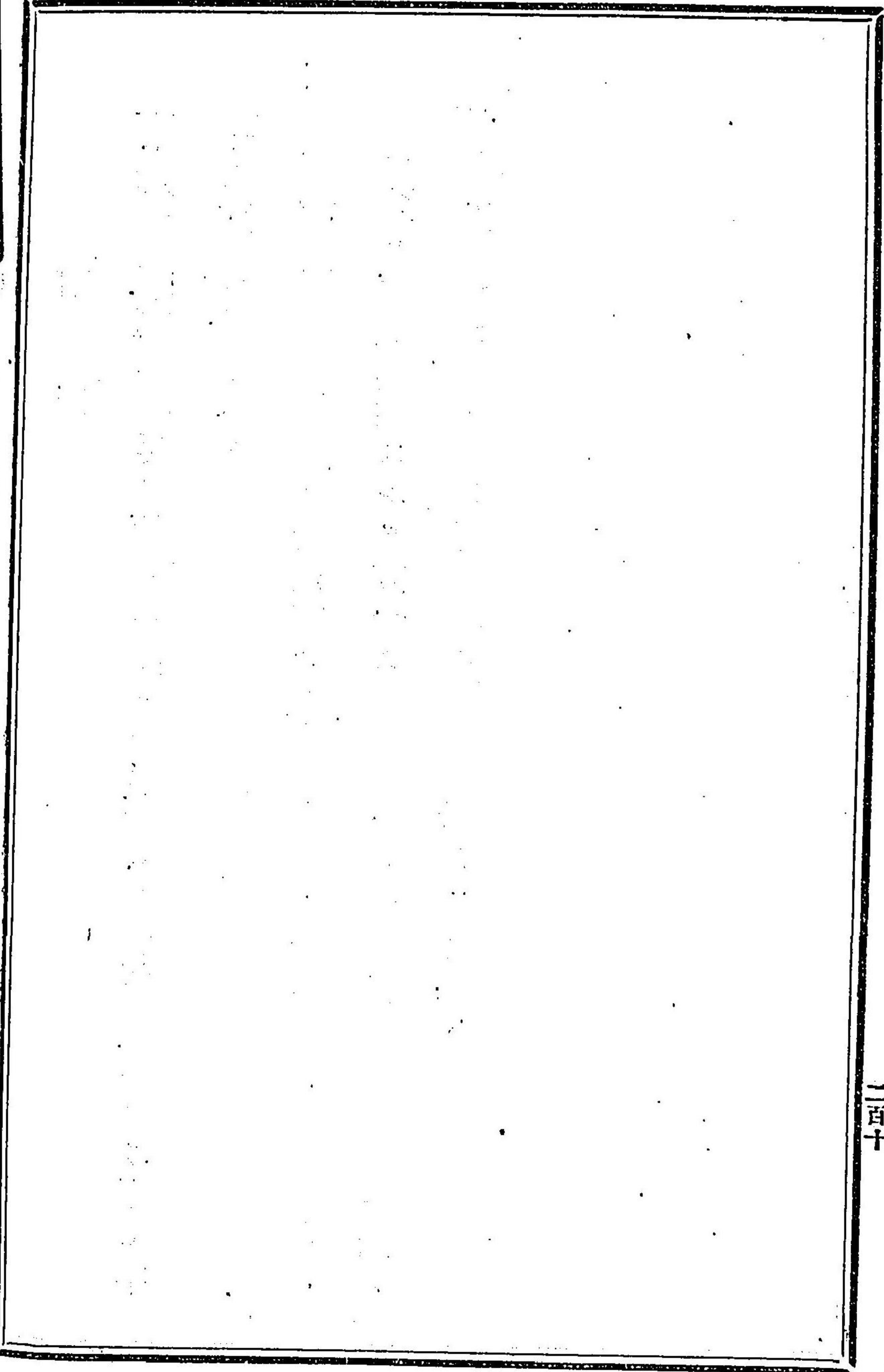
第十五條 帳簿ハ摘要ヲ簡明ニ記入シ員數ハ亞刺比亞數字ヲ用ヒ字

體ヲ鮮明ニ書スヘシ

第十六條 帳簿ハ記入ノ際文字ヲ誤脱スルコトアルモ漫リニ塗抹改

竄シ又ハ補綴糊貼スルヲ許サス其誤脱アル字句員數ハ全體ニ失ノ

二線ヲ施シテ消シ其上部ニ正字原書墨書ハ
墨朱書ハヲ記載スヘシ



(二百十ノ次)

(印章ハ朱)

送 電 信 局

收 入 官 吏

日 官 氏 各 印

氏 名 殿

第一號書式

(印章ハ朱)

(二百十ノ次)

第 號

振替送金證

一金

右金額及送付候條臨時陸軍中央金櫃部ヨリノ送金トシテ領收有之度候也

明治 年 月 日

某電信局

收入官吏

官 氏

名 印

官 氏

名 印

某金櫃部長某殿

第二號書式

第 號

振替送金證

一金

也

右金額及送付候(某)野戰金櫃部ヨリノ送金トシテ領收有之度候也

(某)電信局

收入官吏

明治二十年 月 日

官 氏 名 印

(某部隊)

分任出納官吏 氏 名 殿

第六編 商事

○鑛業規則

(明治二十八年九月二十四日
日令第九號)

第一條 鑛物(金ヲ除ク)ノ採掘及之ニ附屬スル事業ハ當分ノ内從來ノ鑛業人及採掘區域ニ限り之ヲ許可ス

第二條 鑛業人ハ地方官定ムル所ノ期限内採掘願書ニ從來ノ採掘區域圖ヲ添ヘ地方官ニ差出スヘシ其期限經過後ノ出願ハ無効トス

第三條 二人以上ノ鑛業人同區域内ニ於テ採掘ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ其名義ヲ以テ出願スヘシ總代ノ選定ハ各鑛業人ノ連署ヲ以テ地方官ニ届出ヘシ

第四條 採掘ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一人ニ付金五圓ヲ納ムヘ

第五條 地方官ハ從來ノ採掘區域廣キニ過クルト認メタルトキハ臺灣總督府民政局長ノ認可ヲ經テ減縮セシムルコトヲ得

第六條 地方官採掘ノ許可ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業許可證ヲ下付スヘシ

第七條 許可ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ許サス

第八條 鑛業人廢業シタルトキハ其旨ヲ地方官ニ届出鑛業許可證ヲ返納スヘシ

鑛業人休業二十日ニ亙ルトキハ其理由ヲ地方官ニ届出ヘシ地方官

休業ノ理由ヲ不當トシ且將來適當ニ事業ヲ繼續スル能ハサルモノト認ムルトキハ臺灣總督府民政局長ノ認可ヲ經テ採掘ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ地方官ハ臺灣總督府民政局長ノ認可ヲ經テ其許可ヲ取消スヘシ

第十條 鑛業人ハ毎月ノ製産高ヲ翌月十日マテニ地方官ニ届出ヘシ

第十一條 許可ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第八條及第十條ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五

錢以下ノ料料ニ處ス

第十三條 採掘ノ事業他人ノ採掘ニ妨害ヲ加ヘ若クハ鑛利ヲ損害シ若クハ公益ニ害アリト認ムルトキハ地方官ハ其採掘ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

○同 譯 文

第一條 鑛物之採掘。(除黃金)。暨屬採掘之業。姑限清國政府從來所准之鑛業人暨採掘地區。允准採掘。

第二條 鑛業人。遵守地方官廳所示之期日。將採掘稟帖。並從來採掘區域地圖。應赴廳稟請允准。若過期具稟。一切無准。

第三條 鑛業人二人以上欲同就一處。採掘鑛物。則豫先選定工頭一名。以稟請允准。

其所選定工頭。必須共鑛業人等。連署具稟。

第四條 稟請採掘允准者。每一名。先徵手數料五圓。

第五條 從來之採掘地區。如有失廣濶之虞。則地方官廳。隨時稟臺灣總督府民政局長。割減其地區。

第六條 地方官廳。允准採掘。則必發給允准證票。

第七條 既經允准者。不准轉賣採掘鑛物之權。或讓與別人。或充借銀之用。

第八條 鑛業人永停廢業。則應具稟地方官廳。還納允准證票。

暫停採掘者。其停業逾二十日。則應赴地方官廳。具稟停業緣由。地方官查明之後。其緣由不理。或以為不耐繼續其業。則稟臺灣總督府民政局長。消廢其允准。

第九條 據假冒或錯誤之稟請。發給允准證票之後。地方官查出其緣由。則稟臺灣總督府民政局長。消廢其允准。

第十條 鑛業人。期每月初十日。應赴地方官廳。具稟前月內所出之量數。

第十一條 不經允准。私為採掘者。並假冒採掘者。即徵五圓以上五拾圓以下之罰金。

第十二條 違犯第八條暨第十條者。即徵五拾錢以上壹圓九拾五錢以下之科料

第十三條 妨害他人之業務。或亂開坑眼。荒廢鑛地。或有碍公益者。地方官一經查出。則使其停業。或日後不准採掘。

○鑛業條例制定ニ付心得方

(明治二十八年九月三十日
民政局長訓令第六號)

- 一 鑛業規則中地方官トアルハ知事心得支廳長心得支部長心得出張所長心得島司心得ヲ謂フ
- 二 鑛業規則第二條ノ出願期限ハ台北縣管內ニ於テハ來ル十月二十一日トシ其他ノ地方ニ於テハ民政局長ノ認可ヲ經土地ノ情況ニ依リ之ヲ定ムヘシ
- 三 鑛業許可證ハ適宜ノ紙ヲ用ヒ左ノ雛形ニ由ルヘシ

鑛業許可證

第 號

住 所

姓 名

右ハ何堡何庄何所ニ於テ何々ノ採堀ヲ許可ス

年 月 日

知事心得

(支廳長心得支部長心得
出張所長心得島司心得)

- 四 地方官ニ於テ鑛業許可證ヲ下付シタルトキハ之ヲ得タル者ノ住所姓名并ニ鑛物ノ種類及採堀ノ場所ヲ民政局長ニ報告スヘシ
- 五 鑛業規則第十條ニ依リ鑛業人ヨリ屈出ノ製産高ハ民政局長ニ報告スヘシ

- 六 鑛業規則第十三條ニ依リ採堀ヲ禁止セント欲スルトキハ假ニ停止ヲ命シ民政局長ノ指揮ヲ請フヘシ

- 七 採堀願手數料、罰金及科料ハ收入手續ニ依リ臺灣總督府陸軍局金櫃部ニ納付スヘシ

○度量衡器販賣規則

(明治二十八年十月十八日
日 令 第一九號)

- 第一條 度量衡器ノ販賣ハ度量衡法ニ依リ度量衡器ノ製作若クハ販賣ノ免許ヲ受ケタルモノ若クハ其代理人ニアラサレハ許可セス
- 第二條 度量衡器販賣ノ許可ヲ得タルモノハ度量衡法ニ依リ檢定ヲ受ケタル度量衡器ノ外販賣スルコトヲ得ス

第三條 度量衡器ヲ販賣セント欲スル者ハ左ノ事項ヲ具シタル願書

二 通ヲ作り製作若クハ販賣ノ免許狀寫及管轄廳ノ證明書ヲ添へ地方官ヲ經テ臺灣總督府民政局長ニ願出ヘシ但販賣出願者代理人ナルトキハ委任狀ヲ添フヘシ

一 渡航ノ名義及手續

二 販賣セントスル度量衡器ノ種類形狀及物質

三 營業ノ場所

四 營業ニ使用スル傭人ノ數

第四條 臺灣總督府民政局長ハ必要ト認ムルトキハ度量衡器販賣者ノ數ヲ限ルコトアルヘシ

第五條 度量衡器販賣ノ許可ヲ得タル者檢定ノ證印若クハ證書ナキ度量衡器ヲ販賣スルトキハ臺灣總督府民政局長ハ販賣ノ許可ヲ取消スヘシ

第六條 臺灣從來ノ度量衡器ヲ製作シ若クハ販賣スルモノハ此規則ニ依ルノ限ニアラス

○官有林野及樟腦製造業取締規則 (明治二十八年十月三十一日 日令 第二二六號)

第一條 所有權ヲ證明スヘキ地券又ハ其他ノ確證ナキ山林原野ハ總テ官有トス

第二條 臺灣受渡以前ニ清國政府ノ許可ヲ受ケタル證アル區域ノ外

官有ノ林木ヲ伐採シ若クハ官有ノ林野ヲ開墾スルコトヲ得ス
臺灣受渡以前ニ清國政府ノ許可ヲ受ケタル證ヲ有スル者ニアラサ
レハ樟腦ヲ製スルコトヲ得ス

第三條 臺灣受渡以前清國政府ノ許可ニ依リ官有ノ林木ヲ伐採シ若
クハ官有ノ林野ヲ開墾シ若クハ樟腦ヲ製造スル者ハ地方官ノ定ム
ル期日内ニ左記ノ事項ヲ具シタル認許願書ヲ作り清國政府ノ許可
證ヲ添ヘ地方官ニ差出スヘシ

林木伐採ニ關スルモノ

- 一 山林ノ名稱、位置及境界(圖面添)
- 二 山林ノ見積リ面積及樹木概數

三 伐材ノ用途、搬出ノ通路及送付先

四 伐木結了ノ豫定期日

林野開墾ニ關スルモノ

一 土地ノ名稱、位置及境界(圖面添)

二 土地ノ見積リ面積

三 立木ノ種類、概數、用途及送付先

四 開墾結了ノ豫定期日

樟腦製造ニ關スルモノ

一 樟腦製造所ノ位置

二 樟林ノ名稱、位置及境界(圖面添)

- 三 樟林ノ見積リ面積及樟樹概數
 - 四 樟腦製造竈及鍋ノ數
 - 五 雇人ノ數
 - 六 一日ノ樟腦製産豫算高
 - 七 樟腦搬出ノ通路及送付先
 - 八 樟腦製造結了ノ豫定期日
- 第四條 地方官ハ前條ノ願書ヲ認許スヘキモノト認ムルトキハ認許證ヲ下附スヘシ
- 地方官ハ認許願書ニ記載ノ事項ヲ不完全ト認ムルトキハ訂正ヲ命スルコトヲ得

- 第五條 地方官ノ定ムル期日内ニ認許願書ヲ差出サ、ルトキ若クハ清國政府ノ許可證確實ナラスト認ムルトキ若クハ故意ヲ以テ事業結了ノ期日ヲ遅延セシムルト認ムルトキハ地方官ハ其用ニ供シタル物件及生産品ヲ差押ヘ臺灣總督府民政局長ノ認可ヲ經テ之ヲ沒收スルコトヲ得
- 第六條 第二條ニ違背シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第五條ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第七條 第二條ニ違背シタル所爲ヲ助ケタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 指定ノ期日内ニ罰金ヲ納メス督促ヲ受ケテ尙十日以内ニ完

納セサルトキハ其財産ヲ公賣シテ罰金ニ充テ殘餘アルトキハ本人ニ還付ス

○同譯文

第一條 無上手證據、及山林原野之地契、算爲官地

第二條 臺灣交接以前、除有清國政府之允准執照界外、不准民人伐採官地之樹木、及開墾官地

臺灣交接以前、未有清國政府之允准執照者、不准熬製樟腦

第三條 臺灣交接以前、若有清國政府之執照准伐採官地之樹木及開墾官地或熬製樟腦者即日後須遵地方官廳告示日期照于左開列各項

將清國政府所發執照應赴地方官廳一併具稟呈覽

伐採樹木列明

- 一 山林土名、位置、地區境界 (添附繪地圖)
- 二 山林寬窄、樹木盡數
- 三 所伐木料有幾類及其用處、搬運通路、運去何處
- 四 何時可以伐完

開墾林野列明

- 一 土地之名、位置、地區境界 (添附繪地圖)
- 二 土地寬窄
- 三 樹木等類、樹木盡數、所伐木料有幾種及其用處、運去何處

四 何時可以開完

熬製樟腦列明

一 熬製樟腦位置

二 樟林土名、位置、地區境界 (添付繪地圖)

三 樟林寬窄、樟樹若干

四 熬製樟腦灶額及鍋之數目

五 每灶用工人若干

六 每日熬製樟腦至多者若干至少者若干

七 樟腦搬運通路、運去何處

八 何時可以熬完

第四條 地方官必須查明虛實如何可允准即發給執照如地方官查出所稟有不確實者或不具備者即飭其改正

第五條 自地方官所示之限期內若有不稟請允准或清國政府所發之執照糊塗者不明白者或故意遲延完業日期者一經地方官查出並經臺灣總督府民政局長官批准將所用器械等件一概充公

第六條 若違第二條定規者即嚴罰銀五十圓至五百圓為止又照第五條定規所用器械等件一概充公

第七條 若有人故意幫助違第二條定規者一經查出即嚴罰銀二圓至二百圓為止

第八條 罰銀一項自示之後仍未繳納至經催迫已過十日者盡行將其財

産公賣除罰款外若有餘存仍給還本人

○官有林野及樟腦製造業取締規則發布ニ付心得方

(明治二十八年十月三十一日
訓令第一七七一號)

- 一 清國政府ノ許可證ハ臺灣樟腦硫磺總局又ハ撫墾局又ハ樟腦稽查局又ハ其他ノ官衙ヨリ給發シ地方官ニ於テ確實有効ト認ムルモノタルヘシ
- 二 認許願出期限ハ現ニ民政ヲ施行セル地方ニ於テハ規則ヲ領受シタル時ヨリ三十日トシ未タ民政ヲ施行セサル地方ニ於テハ其施行後三十日ト定ムヘシ

- 三 認許證ハ地方官適宜之ヲ定メ其様式ヲ民政局長ニ報告スヘシ
- 四 認許證ヲ與ヘタルトキハ其姓名住所及規則第三條ニ掲ケタル事項ヲ民政局長ニ報告スヘシ

○砂金採取規則

(明治二十八年八月三十日決裁)

- 第一條 砂金ノ採取ハ從來ノ採取地區ニ限り規則ニ依リ許可ス
- 第二條 砂金採取者ハ採取ノ地名及區域ヲ定メ砂金署ニ出願シ鑑札ノ下付ヲ請フヘシ
- 採取地ヲ變更セントスルトキハ砂金署ノ許可ヲ請フヘシ

第三條 砂金採取ノ許可ヲ得タル者ハ鑑札料トシテ一日ニ付拾五錢

ヲ納ムヘシ

第四條 鑑札料ハ一六ノ日ニ前期日分ヲ砂金署ニ納メ領收證ヲ受クヘシ

第五條 降雨ノ日ハ午前十時マテニ鑑札ヲ返納スルトキハ當日ノ鑑札料ヲ免ス

第六條 砂金採取ノ業ヲ中止シ若クハ廢止スルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ鑑札ヲ返納セサレハ何等ノ場合ヲ問ハス鑑札料ヲ徵收スヘシ

第七條 鑑札ハ他人ニ貸付スルヲ許サス

第八條 鑑札ヲ紛失シタルトキハ直ニ砂金署ニ届出ヘシ

第九條 砂金採取者ハ適宜總代ヲ設ケ其業務ヲ代辨セシムルコトヲ

得

前項ノ場合ニ於テハ地方ノ有力家ヲ保證人トシ双方連署ヲ以テ豫メ砂金署ニ届出ヘシ

第十條 砂金ヲ採取スルトキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ之ニ違フ者ハ拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 砂金採取ノ方法他人ノ採取ニ妨害ヲ加ヘ若クハ鑛利ヲ損害シ若クハ公益ニ害アルト認ムルトキ又ハ定期ニ鑑札料ヲ納メサルトキ若クハ五日以内ニ罰金ヲ納メサルトキハ其採取ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

○全 譯 文

第一條 自今之後、採取砂金者、限清國政府從來所准之地區內、遵照現開現條、准採取、

第二條 淘金者、必先定採取之地、並分割地段、赴局稟報、請領牌子、如欲變更地區、則再行報明可也、

第三條 已經允准者、每日應繳牌費十五錢、

第四條 呈繳牌費、定於每月一六之日初一、初六、十一、十六、二十一、二十六赴局、將前期應繳之牌費、清算呈繳、領取收單、

第五條 如遇雨天難做採取之時、即於上午十點鐘前、應將牌子繳局、當日牌費、即不徵收、

第六條 暫停採取、或永停廢業者、當即繳還牌子、如未經繳還者、不論有無事故、均照牌費、如數徵收、決不寬容、

第七條 牌子不准借與他人、或冒名頂替、

第八條 如有失落牌子者、亟應赴局報明、

第九條 採取砂金者、如有舉薦工頭、代辦事務、必須請地方有名望之人中保、須豫先合名稟報、

第十條 當採取砂金之時、必須隨身帶牌、倘有不遵、即從嚴罰款拾五圓以內、

第十一條 妨害他人之作業、或亂開坑眼、荒廢鑛地、有碍公益、暨有到期不繳牌費、或五日以內未繳罰款者等、均應照法處辦、或暫命停止、

又永不准採取、

○營業許可手續 (明治二十八年七月十二日公達)

第一條 臺灣島在留ノ内地人中臺灣總督府ニ於テ渡航ヲ許可シ又ハ臺灣總督府ノ職務ニ從事シタリシ者ニシテ其職ヲ辭シ臺灣ニ於テ引續キ正實ノ業務ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル營業願書正副二通ヲ作り縣知事又ハ支廳長ヲ經テ願出ツヘシ

- 一 商業ノ種類
- 二 資本高
- 三 開店ノ場所

四 營業上ニ使役スル傭人ノ員數

五 從來ノ職業

第二條 縣知事又ハ支廳長ニ於テ前條ノ願書ヲ審查シ確實ト認ムルトキハ臺灣總督府民政局ニ申牒スヘシ

第三條 臺灣總督府民政局ニ於テ縣知事又ハ支廳長ノ申牒ヲ相當ト認メ且ツ行政上又ハ軍事上ニ妨害ナシト認メタルトキニ限り營業ヲ許可シ之レヲ許可シタルトキハ縣知事又ハ支廳長ヲ經テ營業許可證ヲ與フヘシ

營業者ハ憲兵警察官ヨリ要求アルトキハ何時タリトモ營業許可證ヲ示スノ義務アルモノトス

第四條 營業者ニシテ占賣其他公衆ノ利益ヲ害スルノ所爲アル時ハ其營業ヲ禁止スルコトアルヘシ

第五條 營業者ニハ商品ノ輸送其他何等ノ事情アルニ拘ハラズ官船ニ貨物搭載又ハ營業者ノ便乗ヲ許可セサルモノトス
但シ臺灣總督府ヨリ緊急ノ必需品調達ヲ命シタル場合ニ於テハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條 營業者ハ如何ナル事情アルニ拘ハラズ糧食其他必需品ノ支給又ハ拂下ヲ臺灣總督府ヘ願ヒ出ルヲ得ス

營業者ノ願出ニ依リ縣知事又ハ支廳長ニ於テ官有家屋ヲ貸與スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ相當ノ身元保證金ヲ徴スルコトアル

ヘシ

第七條 此手續ハ政府ニ於テ自由渡航ヲ許可シ及營業ニ關スル規則ヲ制定スルマテ其効力ヲ有スルモノトス

○酒保ノ制限 (明治二十八年八月十八日公達)

第一條 酒保ハ軍隊艦隊ニ屬スルモノ、外之ヲ廢止ス

第二條 軍隊艦隊ニ屬スル酒保ハ事情ノ如何ニ拘ラス其屬スル軍隊艦隊ノ外ニ物品ヲ販賣スルコトヲ得ス但特ニ軍隊艦隊ノ責任アル官吏ヨリ命シタル場合ハ此限ニアラス

第三條 此命令ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

第七編 運輸、通信、船舶

○臺灣島航行商船商賈取締方 (明治二十八年八月二十六日官報)

臺灣島へ航行ノ商船商賈ノ取締ハ當分ノ内本年四月二十三日改正占領地航行商船商賈取締規則ニ準據シ大本營ニ於テ取扱フ

(参照)

占領地航行商船商賈取締規則 明治二十八年四月二十三日改正

第一條 清國ノ版圖内ニ於ケル帝國占領地ノ河川港灣ニ出入シ得ル商船ハ大本營ノ特許ヲ得タルモノニ限ル但稅關輸出入其他船舶ニ關スル法令及軍港要港ニ在テハ海軍根據地司令長官ノ定ムル規則命令ヲ遵守スヘキハ勿論トス

第二條 占領地ニ航行セントスル商船ハ其船主ヨリ豫メ左ノ事項ヲ記シ大本營ニ願出特許證ヲ受クヘシ

一 船名噸數

一 搭載貨物ノ種類數量

一 船長以下乘組員人員

一 揚陸地

第三條 前條ノ商船ニ便乘渡航シ得ルモノハ右搭載貨物ノ貨主又ハ其商業使用人ニシテ現ニ其業務ニ從事スルモノニ限ル但大本營特別ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第四條 占領地ノ河川港灣ニ航行ノ商船ハ出入毎ニ其地ノ運輸通信官衙（此官衙ナキ地ニ在テハ兵站部）ニ届出貨物積卸等一切其指揮ニ從フヘシ

軍港要港ニ在テ貨物積卸ノ場所時刻等ニ就テハ海軍官憲ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條 占領地ニ上陸シタルモノハ海外旅行券ヲ其地運輸通信官衙（此官衙ナキ地ニ在テハ兵站部）ニ差出シ占領地内通行ノ免狀ヲ受クヘシ運輸通信官衙若クハ兵站部ニ於テ揚陸貨物ニ對シ不相當ノ使用人ト認ムルトキハ通行免狀ヲ與ヘス直ニ歸朝ヲ命スルコトアルヘシ

上陸ノ目的軍港要港ニ關係アル者海外旅行券ヲ海軍官憲ニ差出シ其指揮ヲ受クヘシ

第六條 總テ占領地ニ上陸シタル者ハ軍衙ノ指揮命令ヲ遵守スヘシ

第七條 當該陸海軍官憲ヨリ船舶ノ出港免狀荷積證書海外旅行券占領地内通行免狀等ノ檢視ヲ命セラレタルトキハ直チニ其命令ニ從フヘシ

第八條 陸海軍官憲ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ船舶ノ出入及其碇泊又ハ貨物ノ積卸乗船員ノ上陸等ヲ止ムルコトアルヘシ

但之レカ爲メ生シタル損害ハ陸海軍官憲其責ニ任セス

第九條 兵器彈藥爆發物其他陸海軍官憲ニ於テ占領地内ニ携行シ又ハ賣買スルヲ有害ト認ムル物品ハ揚陸携行ヲ禁スヘシ

第十條 軍人軍屬ニ販賣スヘキ商品ハ價格表ヲ作り民政官衙ノ認可ヲ經ヘシ若シ民政官衙遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍高等司令部ノ認可ヲ經ヘシ

軍港要港ニ於テノ軍人軍屬ニ販賣スルヲ目的トスル商品ニ就テハ海軍官憲ノ認可ヲ經ヘシ

第十一條 前條ノ認可ヲ經タル價格表ハ必ス之ヲ店頭ニ掲ケ行商スルトキハ携帯スヘシ

第十二條 占領地ニ航行スル商船ハ陸海軍官憲又ハ警察官ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 占領地ニ於テ船舶ニ搭載スル物品ハ民政廳若クハ陸海軍官憲ノ認可ヲ得タルモノニ限ル

第十四條 占領地ニ航行スル商船ニハ軍事郵便物ノ無賃搭載ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 當該陸海軍官憲ノ命令ニ違背シ若クハ有害ノ行爲アルモノト認ムルトキハ直チニ通行免狀ヲ取上ケ歸朝ヲ命スヘシ

第十六條 本規則ニ關係スル占領地内ノ規則ハ總督ノ定ムル所ニ從フヘシ

軍港要港内ニ關シテハ海軍根據地司令長官ノ定ムル所ニ依ルヘシ

○大本營ノ許可ヲ得臺灣及澎湖島ニ航行スル商船商賈

取締規則

(明治二十八年九月二十五日 日令第八號)

第一條 臺灣及澎湖島ニ航行スル商船商賈ハ明治二十八年四月二十

三日改正占領地航行商船商賈取締規則ハ勿論本則ヲ遵守スヘシ

第二條 大本營ノ特許ヲ得テ臺灣及澎湖島各港灣河川ニ到着シタル

商船ハ其船主ヨリ取締規則第四條及第五條ニ指定シタル官衙ヘ左ノ事項ヲ詳記シタル書面ニ大本營特許證寫ヲ添ヘ届出ツヘシ

一 船長以下乗組人員ノ住所氏名

二 便乗シタル貨主及其使用人ノ區別并其住所氏名

三 大本營ノ特許ヲ得テ便乗シタルモノアルトキハ其住所氏名

四 陸揚貨物ノ種類并數量

五 陸揚貨物ヲ積入ルヘキ倉庫又ハ貯藏場ノ位置

六 陸揚貨物ノ營業

第三條 商船ノ到着シタル各港灣河川ニ於テ取締規則第四條及第五條ニ指定シタル官衙ノ設ナキトキハ其地管轄ノ地方行政官廳ヘ届出テ其指揮ヲ受クヘシ

第四條 貨主貨物ヲ積卸シ又ハ之カ運搬ノ爲メ要スル船舶及人夫等ハ取締規則第四條及第五條ニ指定シタル官衙ニ申出其指揮ヲ受ケ借入又ハ雇入ノ手續ヲ爲スヘキモノトス其營業場、倉庫、貯藏所等ヲ借入ントスル場合亦同シ

前項船舶家屋ノ借料人夫雇賃等ハ貨主又ハ其營業使用人ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五條 取締規則第五條ノ通行免狀ヲ受ケスシテ濫リニ本島内ヲ通行スルトキハ其進行ヲ差止メ又ハ其最初上陸シタル地點ヘ立戻ラシメ場合ニ依リテハ歸朝ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 本島ニ渡航セシ商船歸航セントスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ本則第三條ニ依リ届出ツヘシ

- 一 船名噸數
- 二 船長以下ノ乗組人員并其住所氏名
- 三 積入貨物ノ種類并數量

四 出帆ノ期日

五 歸著スヘキ豫定ノ日時場所

第七條 取締規則第十條ノ價格表ハ其指定ノ官衙ニ於テ定メタル雖形ニ依リ届出認可ヲ受ヘシ其物品ノ價格ヲ變更シタル場合亦同シ

○清國其他ノ外國ヨリ臺灣島及澎湖列島へ渡航スル内國人

取締規則 (明治二十八年十月二十九日 日令第二五號)

第一條 内國人ニシテ清國其他ノ外國ヨリ臺灣島及澎湖列島へ渡航シ上陸セントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シタル届書ヲ其地運輸通信

部運輸通信部ナキ地ハ兵站部 兵站部ナキ地ハ地方官廳へ差出シ認可ヲ受クヘシ

一 屬籍住所氏名身分職業年齡

二 出發地名及其年月日

三 上陸ノ目的及行先地

第二條 憲兵又ハ警察官ニ於テ携帶品ノ検査ヲ求メタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス又上陸ニ關スル事項ニ付尋問アルトキハ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

第三條 公益ヲ害シ又ハ風俗ヲ亂リ若クハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ上陸ヲ差止メ又ハ本島在留ヲ禁止スルコトアルヘシ

第四條 第一條第二條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

○清國其他ノ外國ヨリ臺灣島及澎湖列島へ渡航スル内國人取締規則制定ニ付地方官廳ニ於テ取扱フ場合ノ心得

(明治二十八年十月二十九日
訓第一五號)

第一條 清國其他ノ外國ヨリ渡航ノ船舶アルトキハ警察官ヲシテ其上陸點ニ出張セシメ若シ内國人ニシテ上陸セントスル者アルトキハ上陸届出ノ手續ヲ告知セシムヘシ

第二條 警察官ニ於テ規則第二條ニ依リ上陸者携帶品ノ検査又ハ上陸ノ目的等尋問ノ必要アルトキハ成ルヘク本人ノ迷惑トナラサル様注意スヘシ

前項ノ場合ニ於テ規則第三條ニ該當スルモノト認メタルトキハ上

陸届ヲ差出スヘキ官衙へ同行シ其旨申報スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ上陸ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ認可書ヲ附與スヘシ

上陸認可書	
屬籍住所職業身分	
一 目的何々	氏 名
一 行先地何々	年 齡
右上陸ヲ認可ス	
年 月 日	地方官廳名印

(用紙美濃紙半折)

第四條 規則第三條ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ爲ストキハ命令書ヲ附與シ直ニ民政局長へ報告シ一面警察官ヲシテ本人ヲ乗船地ニ遞傳

護送シ在留禁止ノ處分ヲ執行セシムヘシ

在留禁止命令書

屬籍住所職業身分

氏名

年齢

右ハ(公益ヲ害スルノ所爲アリ)(風俗ヲ亂スノ所爲アリ)(危険ノ虞アリ)ト認ムルニ付本島在留ヲ禁止ス

年月日 地方官廳名印

(用紙美濃紙半折)

○外國通航船及外國船ヲ以テ本島ト内地トノ間ニ輸送スル

貨物ニ對スル取扱方

(明治二十八年十一月廿六日) 日令第四三號

第一 其港ヨリ内地各開港ヘ輸送シ又ハ内地各開港ヨリ其港ヘ輸送

シ來ル貨物ハ回漕免狀ヲ交付シ又回漕免狀ニ陸揚ノ證明ヲ爲ス等内地稅關ニ於テ内地開港間回漕ノ取扱ヲ爲スニ差支ナキ様取扱フヘシ

第二 本島產貨物ノ回漕ハ總テ内地開港ヘ陸揚スルト否トヲ問ハス該開港ヲ經テ外國ヘ輸出セラルヘキモノト認定スルトキ前項回漕免狀ヲ交附スルノ限ニアラス

○臺灣發着公衆電報取扱假規程

(明治二十八年十一月十二日) 日令第三一號

總則

第一條 臺灣發着公衆電報ノ取扱方法ハ遞信省ニ於テ定ムル所ノ規

定ニ依ルモノトス

第二條 電報取扱ノ事務ハ臺灣總督府及同府ノ管下ニ屬スル部隊ノ電信吏員之ニ任スルモノトス

第三條 電報書類其他之ニ關スル報告書ハ臺灣總督府陸軍局電信部(以下單ニ電信部ト稱ス)ニ於テ遞信省ノ定ムル所ニ從ヒ整理差立ルモノトス

第四條 臺灣ニ於テ徵收スル電報ノ料金ハ地方電報ト萬國電報トヲ間ハス都テ現金ヲ以テ納付セシムルモノトス

第五條 臺灣發着電報ニ關スル料金ノ取扱ヲナス爲メ臺灣總督府電信吏員ニ遞信省所管收入官吏ヲ命スルモノトス但電信收入金取扱方ハ別ニ定ムル所ニ依ルモノトス

地方電報

第六條 臺灣内地限リ發着スル地方電報ノ取扱ヲ開始シタル時ハ和歐文トモ凡テ電信條例及電信取扱規則其他遞信省ニ於テ定ムル規程ニ準シ取扱フモノトス

第七條 地方電報ノ料金ハ當分ノ内臺灣總督府ニ於テ從前所定ノ料金ヲ標準トシテ便宜之ヲ定ムルモノトス但其料率ハ電信部ヨリ遞信省通信局長ヘ報告スルモノトス

萬國電報

第八條 臺灣以外ノ各地ト臺灣トノ間ニ發着スル萬國電報ハ萬國電信條約及細目規則其他萬國電報ニ關シ遞信省ニ於テ定ムル規定ニ

依り取扱フモノトス

第九條 臺灣ヨリ發スル萬國電報ノ料金(福州臺灣間料金其他福州以外ニ屬スル總テノ料金)ハ從

來ノ萬國電報料率ニ從ヒ之ヲ收納スルモノトス

臺灣ニ着シタル萬國電報ニ關シ受信人ヨリ收納スヘキ料金アルト
キ亦同シ

第十條 臺灣發着ノ電報ニ關スル萬國計算ハ遞信省通信局ニ於テ關
係ノ政府又ハ會社ニ對シ之ヲ執行スヘシ

第十一條 臺灣發着ノ電報ニ關スル萬國計算即外國政府又ハ會社ト計
算スヘキ料金ハ左ノ各項ニ依リ處理スルモノトシ電信部ヨリ毎月十
五日迄ニ別紙書式第一號及第二號ニ依リ書面ヲ以テ又毎月二日迄ニ

書式第三號ニ依リ電報ヲ以テ遞信省通信局長ニ報告ヲナスモノトス

一 臺灣福州間ノ電報料ハ當分萬國計算ニ算入セス追テ清國政府
ト電信條約ヲ締結シタル上其條款ノ定ムル所ニ從ヒ其電報料ヲ
萬國計算ニ算入スルモノトス

二 臺灣ヨリ發シ福州ヲ經テ清國陸線及其他ノ陸線ノミ(北部電
信會社ノ海底線ヲ經由セサルモノ)ニ依リ傳送スル電報ノ福州
以外ニ係ル料金ハ當分萬國計算ニ算入セス在福州清國電報局ト
在臺北電信部ト協議シ電報又ハ書面ニ依リ其料金額ヲ照查シ置
キ清國政府ト電信條約ヲ締結シタル上日清兩國電信主管廳ニ於
テ之ヲ計算スルモノトス

三 福州ヨリ北部電信會社海底線ヲ經由シ更ニ他ノ海底線又ハ陸線ニ依リ傳送シ本邦ヲ經由セスシテ各地ニ至ル電報ノ福州以外ノ料金モ亦萬國計算ニ算入スルモノトス

四 福州ヨリ北部電信會社海底線ニ依リ又ハ清國陸線ヲ經由シ更ニ海底線ニ依リ本邦又ハ本邦ヲ經テ朝鮮國へ傳送スル電報ノ福州以外ノ料金ハ萬國計算ニ算入スルモノトス

第十二條 臺灣ヨリ發シタル電報ハ福州ヨリ清國陸線ヲ經テ傳送シタルモノト會社海底線ヲ經テ傳送シタルモノトノ別ヲ明ニスル爲メ在臺北信電部附遞信省所管收入官吏ハ在福州清國電報局へ協議シ該局ヨリ之カ報告ヲ受クルモノトス

福州以外ノ料金等ヲ書式ノ如ク區別掲載

返信料前納電報ノ前納額ハ其電報ニシテ

料金欄内ニ其他ニ着スルモノハ福州以外

トス

返信料證券ヲ以テ發送ノ分ハ其料金ヲ朱

ヘキモノトス照校至急及返信料前納電報

別掲載スヘキモノトス

第一號書式

明治 年 月分臺灣發

萬國電報調

發地	着地	經過電路	類別	報語	數通	數	臺灣福州間料金	計	記事
淡水	福州	經	陸		五	五	四		
全	東京				八	二	一		
全	全		至急		一	八	一		
臺北府	福州				一	〇	一		
全	上海	滄	陸		二	〇	二		
全	全	海底線	返信納		一	二	一		内返信料前納三語分
全	北京	全	照	梭	三	一			
全	孟買	清	陸	清	二	〇	二		
全	浦鹽斯德	上海マテ	清	國	一	五	三		
全	全	全部海底線			六	一			證券ニテ發送ノ分
合計					二	四	一	三	
外金									證券ニテ發送ノ分

備考

本表ニ掲載スヘキモノハ都テ臺灣ヲ發シタル萬國電報ニシテ其料金ハ臺灣福州間、清國政府ヘ拂渡スヘキ福州以外ノ料金及大北部電信會社ヘ拂渡スヘキ福州以外ノ料金等支書式ノ如ク區別掲載スヘキモノトス

返信料前納電報ノ前納額ハ其電報ニシテ福州ニ直着スルモノハ臺灣福州間料金欄内ニ其他ニ着スルモノハ福州以外ノ料金欄内ニ合算掲載スヘキモノトス

返信料證券ヲ以テ發送ノ分ハ其料金ヲ朱書シ合計ニ算入セス外立ニ掲載スヘキモノトス照校、至急及返信料前納電報ノ如キ特種ノ電報ハ通常電報ト區別掲載スヘキモノトス

第二號書式

明治 年 月分臺灣着

萬國電報調

發地	着地	電報類別	語數	通數	福州臺灣間料金		記事
					福州	臺灣	
福州	淡水		四六	六			
東京	全		九九	二〇			
全	全	返信料前納	一〇	一			内返信料前納五語分
長崎	全		一七	二			
京城	臺北府	至急	三	一			
香港	全		九	一			
孟買	全		二三	三			
全	全	照校	九	一			
東京	基隆		二〇	三			
合計			一三六	三八			

備考

本表ニ掲載スヘキ料金ハ臺灣ニ着シタル萬國電報ノ福州臺灣間料金ナリ
 トス但返信料前納電報ニ對スル料金ハ其前納額ヲモ合算掲載スヘキモノ
 トス

照校至急及返信料前納電報ノ如キ特種ノ料金ヲ課スヘキモノハ之ヲ區別
 掲載スヘキモノトス

第參號書式

To Director General Tokio.

July account of Taiwan traffic calculated beyond Foochow via Cable throughout to Japan.

Govt.....	words.....	sen	(including TC.....)
words.....	sen or RP.....	words.....	(sen) other
Messages.....	words.....	sen (including D.....)	words
.....	sen or RP.....	words.....	(sen) to Fusan
Govt.....	words.....	sen other Messages.....
.....	words.....	sen to Seoul Govt.....	words.....
.....	sen (including RP.....)	words.....	(sen)
Via Land line	Cable to Japan	Govt.....	words
.....	sen (including TC.....)	words.....	(sen)
Other Messages.....	words.....	sen (including)
RP.....	words.....	sen) to Fusan Govt
.....	words.....	sen Other Messages.....	words
.....	sen (including D.....)	words.....	(sen)
to Chemulpo	Govt.....	words.....	sen Other
Messages.....	words.....	sen

Taipeh.

備考

本表ハ臺灣發日本着及日本ヲ往テ朝鮮着電報ノ福州以外ノ料金ヲ翌月二日マ
 テニ前月分ヲ取纏メ電報ヲ以テ報告スヘキ書式ニシテ左ノ區別ヲ調製スルカ
 タメ要スルモノトス

福州ヨリ長崎マテ全部海底線經由ノモノ

一日本着

日本政府官報

語數料金

照校及返信料前納等ノモノハ其内譯ヲ報告スヘシ

他國官報及一般私報

語數料金

至急、照校又ハ返信料前納ノ如キモノハ其内譯ヲ報告スヘシ

一釜山着

同前

一京城着

同前

一仁川着

同前

一元山着

同前

福州ヨリ上海ニテ陸線上海ヨリ長崎マテ海底線經由ノモノ

一日本着

報告スヘキ

一釜山着

事項ハ前各

一仁川着

項ニ同シ

一元山着

○臺灣飛信取扱心得

(明治二十八年九月二十四日公達)

一 飛信トハ臺灣總督府臺灣島各地ノ部隊及碇泊軍艦或ハ其一方出張長官ト互ニ非常至急ノ信報ヲ通スル時ノミニ用ユル別段ノ急便ヲ云フ

二 飛信ハ左ニ列記スルモノ、外之ヲ差出スコトヲ得サルモノトス

總督府幕僚^{以上長官} 陸軍局長 海軍局長 民政局長

陸軍局各部長 民政局支部長 軍司令官同參謀長

師團長同參謀長 旅團長 艦隊司令長官同參謀長

艦長 兵站監 兵站司令官 郵便局長

特ニ派遣シタル參謀將校及偵察將校

三 飛信ノ差立ハ最近ノ野戰郵便局若クハ兵站司令部(郵便局在在外)ニ差出スヘシ

四 飛信ハ最モ至急ヲ要スルモノニ付晝夜風雨ノ時ヲ論セス強壯ナル郵便脚夫又ハ軍夫(日本人ニ限ル)ヲ差出シ其遞送夫ノ脚力ニ及フ丈飛送セシメ之ヲ次ノ野戰郵便局若クハ兵站司令部へ繼立ルモノトス
五 飛信ノ封筒ハ硬質ナル料紙ヲ用ヒ更ニ澁紙或ハ油紙ヲ以テ上包ヲナシ有合ノ布袋又ハ風呂敷等ニ包ミ遞送夫ノ腰腹或ハ背へ大切堅固ニ結ヒ着ケ遞送スルモノトス

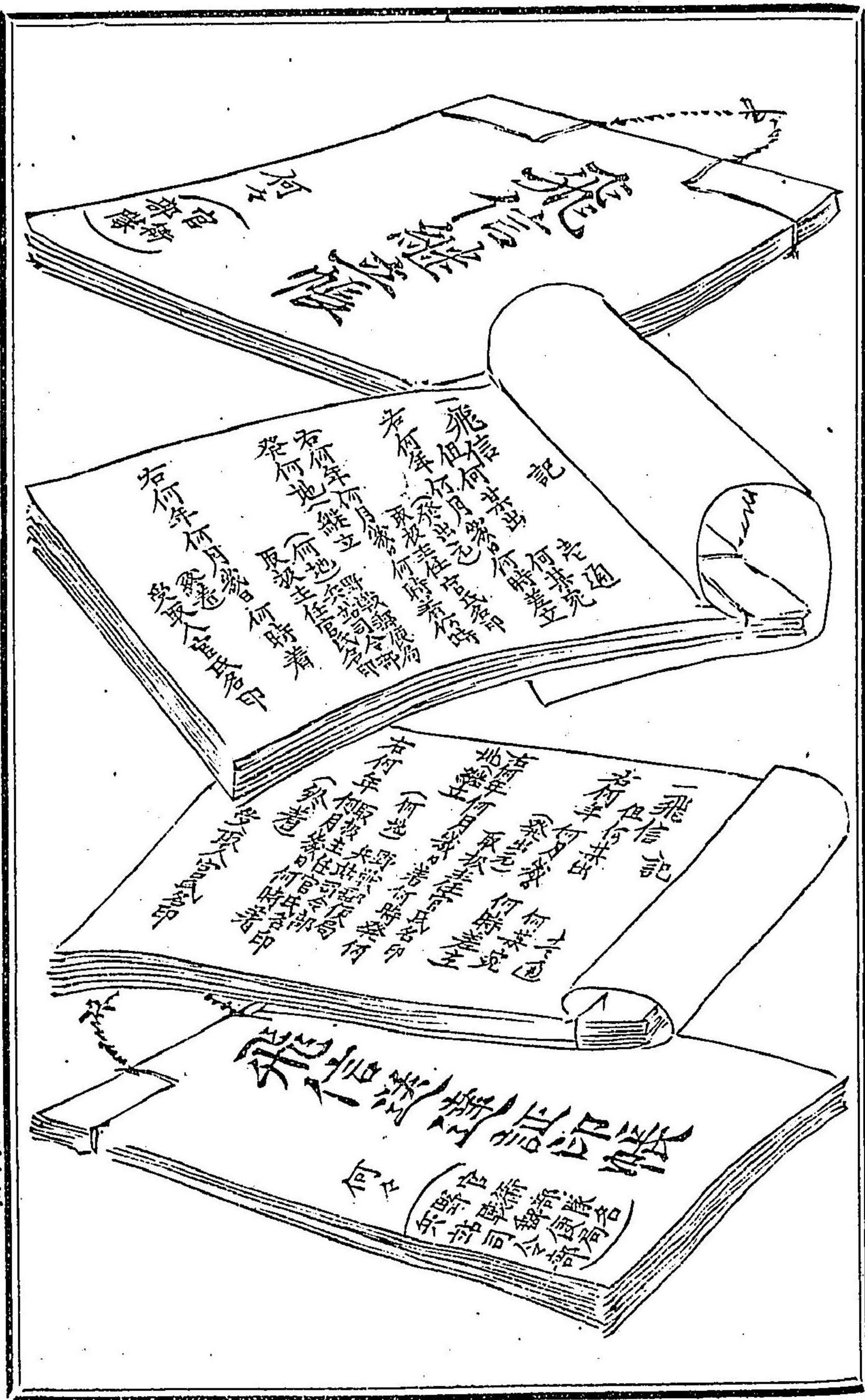
六 飛信差立ノトキハ飛信繼立帳ニ其飛信通數差出人受取人ノ官名差立年月日時刻ヲ記入シ尙取扱主任官氏名ヲ記入捺印シ之ヲ

最近野戰郵便局若クハ兵站司令部(郵便局在在外)ニ差出其部局主任ハ受付タル年月日時刻官氏名ヲ記入捺印直ニ次ノ繼立部局ニ向ヒ發送シ飛信受取人ニ於テハ終着年月日時刻記入捺印ノ上發出元ニ郵送返戻スヘシ

七 飛信差立元及各繼立部局ニ於テ飛信送達證印帳ヲ設ケ飛信差立及繼立ノ際飛信繼立帳同様記入ノ上遞送夫ニ交付シ遞送夫ハ次ノ部局主任若クハ受取人ノ證印ヲ取り之ヲ持戻リ取扱主任ニ提出スヘシ

八 渡船場等ノ夜越無之地ハ其管區兵站司令部ニ於テ其機ニ當リ差支ヘサル様豫メ準備シ置クヘシ

- 九 遞送途中事故有之遲延スルトキハ最近部局ニ於テ其事由ヲ繼立帳及送達證印帳ニ詳記スヘシ又賊徒等ノ爲メ飛信ヲ奪ハル、等ノ危険ニ迫ル時ハ之ヲ破棄シテ賊手ニ委セサルヲ勉ムヘシ如斯變アルトキハ其事由封書ヲ以テ速ニ飛信差立元ヘ申報スヘシ
- 十 瀛軍沿道ニ於テハ遞送夫ヲ便乗セシメ途中繼立チナサ、ルモノトス
- 十一 晝夜ヲ論セス各部局ニ於テ遞送途中危険ノ恐レアリト認ムルトキハ之レカ護衛兵ハ其地ノ兵站司令官ニ要求スルモノトス
- 十二 飛信繼立帳及送達證印帳ハ半紙四折ヲ以テ製シ左ノ書式ニ依リ記入スヘシ



○臺灣鐵道輸送并軌道行進規定

(明治二十八年八月五日)
陸軍省通知

第一條 鐵道ニ依テ人員及物品ヲ輸送シ又ハ軌道ヲ行進セントスルモノハ本規定ニ依ルヘシ

第二條 人員及物品ノ輸送ヲ爲サントスルトキハ當該各部各隊長ヨリ左ノ諸件ヲ明記シ停車場司令官(停車場司令部ノ設ケナキ驛ニアリテハ驛長以下全シ)ニ輸送ノ請求ヲ爲スヘシ

但シ貨車二臺以上ヲ要スル數量アルモノニシテ特ニ急送ノ必要アルトキハ線區司令官ニ請求スヘシ

- 一 官等身分及人員
- 二 物品ノ種類及員數

三 發送地及到着地

四 到着後物品ヲ引渡スヘキ部隊并ニ其所在地

五 到着ヲ望ム時日

第三條 發車停車場司令官ハ前條ノ請求ヲ受クルトキハ鐵道吏員ト協議シ輸送ノ手續ヲ爲シ乗車スヘキ時或ハ發車停車場ニ物品ヲ持込ムヘキ時日ヲ當該部隊長ニ通知スヘシ

第二條 但書ノ場合ニ在テハ線區司令官ハ運輸ノ緩急ヲ計リ停車場司令官ニ命シテ前項ノ手續ヲナサシム

第四條 輸送ノ請求ヲ爲シタル各部各隊長前條第一項ノ通知ヲ受クルトキハ時日ヲ違ヘス發車停車場ニ至リ或ハ物品ヲ持込ミ(多量

若クハ貴重ノ物品ニハ一名ノ宰領者ヲ付スヘシ(輸送券ト共ニ停車場司令官ニ差出シ且其旨物品受領者ニ通知スヘシ)

第五條 物品到着シタルトキハ下車停車場司令官ヨリ該物品ヲ引渡スヘキ部隊ニ到着ノ旨ヲ通知スヘシ

物品到着ノ通知ヲ得タル各部各隊長ハ遅クモ通知ヲ受ケタル翌日迄ニ物品ヲ受領シ停車場内ヨリ運搬ヲ終ル如クスヘシ

第六條 人員及物品ノ輸送ニハ輸送券ヲ用ユ其雛形左ノ如シ但シ本券ハ發車停車場司令官ノ檢印ヲ受ケ下車停車場司令官ニ差出スモノトス

第七條 軍事輸送ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ單行者ノ便乗ヲ許ス

便乗ヲ望ム者ハ其前日(臨時至急ヲ要スルモノハ其際)所屬各部各隊ヨリ停車場司令部ニ請求スヘシ

停車場司令官便乗ヲ承認シタルトキハ便乗券ヲ交附スルモノトス

第八條 軌道ヲ行進スル者ハ左ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 馬匹車輛及大ナル隊列ヲ編成シテ行進スル者ハ指定ノ時間外一切通行ヲ禁ス

但シ多數ノ人員ハ數群ニ分レ危害ヲ避クルニ足ルヘキ距離ヲ存シテ行進スルトキハ本文ノ限りニアラス

二 列伍ヲ爲シテ行進スル者ハ其前方數百歩ニ監視者ヲ先行セシメ不時ノ危険ヲ避クルコトニ注意スヘシ

三 軌道ヲ行進セント欲スル者ハ停車場ニ至リ指定ノ時間ヲ承知スヘシ

但シ單行人ハ此限リニアラス

四 已ムヲ得サル事由アリテ通行禁止ノ時間内ニ馬匹若クハ車輛ヲ通セシムル必要アルトキハ線區司令官ニ申告シ其ノ承諾ヲ受ケ且某驛間通過ニ故障ナキ時刻ヲ詳知スヘシ

第九條 停車場司令官ハ通行ヲ許スヘキ時間ヲ停車場内ニ揭示スヘシ

第十條 急峻ナル登坂路即チ左ノ地點ニ於テハ列車不意ニ退降ヲナスコトアルヲ以テ列車發行セル後約千米突以上離隔シテ行進ヲ始

メ且斷ヘス列車ノ退行ニ注意スヘシ

基隆「トンネル」ノ前後坂路

水邊脚東方及西方坂路

龜侖ノ東方坂路

新車ノ北方坂路

○民政局員旅行心得

(明治二十八年十二月五日) 訓第一九號

第一條 縣知事支部長島司支廳長出張所長他管内へ旅行セントスルトキハ其事由及豫定ノ日數ヲ記シ民政局長へ具申シ認可ヲ受クヘシ但事緊急ニシテ許可ヲ受クルノ違ナキトキハ出發前其事由ヲ詳

記シ民政局長へ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ支廳長出張所長ハ縣知事又ハ支部長ヲ經由ス

ヘシ

第二條 出張巡廻等ヲ命セラレタル吏員ハ左ノ事項ヲ民政局各部ニ

於テハ局長ニ地方廳ニ於テハ縣知事支部長島司支廳長出張所長ニ

届出ヘシ

一 出張又ハ巡回ヲ命セラレタルモノハ其豫定ノ日數ヲ記シ出發

前届出ヘキ事

一 歸廳シタルトキハ即日其旨届出ヘキ事

一 他ニ赴任セントスルトキハ速ニ出發スヘキ豫定ノ日時ヲ記シ

届出ヘキ事

一 總督府へ出張又ハ地方へ赴任ノ吏員ハ其到着セシ當日其宿所

ヲ届出ヘキ事但出張ノ吏員ハ其滞在ノ日數ヲモ併記スヘキ事

第三條 税關長砂金署長其他民政局所屬各官衛長旅行セントスルト

キハ第一條ニ依リ許可ヲ受クヘシ

前項官衛ノ所屬吏員旅行ノ場合ニ於テハ第二條ニ依リ届出ヲナス

ヘシ

第八編 官吏待遇

○臺灣島ニ文武ノ職ヲ奉スル者ハ外征從軍者トス

(明治二十八年八月十七日閣議決定)

臺灣事務局總裁具申臺灣島ニ文武ノ職ヲ奉スル者事平定ニ至ルマテ外征從軍者トシテ取扱ノ件ヲ審査スルニ日清間ノ平和既ニ回復シ臺灣島ノ受渡完了シタル今日ニ於テハ臺灣島ハ固ヨリ既ニ帝國ノ版圖ニ屬スト雖モ條約批准交換後二年間ハ其ノ土民ハ未タ純然タル帝國ノ臣民ト云フコトヲ得サルノミナラス數多ノ清國ノ殘兵險要ノ地ニ據リ土民ト相合シテ頑固ナル抗敵ヲ爲シ形勢恰モ一敵國ノ如ク今後尙數多ノ戰鬪アルコトヲ免レサルヘシ而シテ是皆日清戰爭ニ伴フノ

結果ナルヲ以テ事實上之ヲ外征ト見做シ其ノ從軍者ヲ外征從軍者トシテ取扱フモ敢テ不都合ノ廉無之ト閣議決定ス

○臺灣總督府附雇員名稱

(明治二十八年七月二十三日公達)

陸軍省雇員ニシテ大本營附ヲ命セラレ臺灣ニ派遣セラレタル者ハ自今臺灣總督府雇員ト心得ヘシ
前項以外ノ官吏ニシテ大本營附ヲ命セラレ臺灣ニ派遣セラレタル者ハ自今臺灣總督府附ト心得ヘシ

○舊知事支廳長名稱變更ノ件

(明治二十八年八月二十五日)
(民政局長達)

民政支部及出張所規程相定候ニ付テハ舊知事ハ支部長支廳長ハ出張所長ト稱シ其所屬吏員ハ従前ノ通り部長若クハ所長ノ配下ニ屬スル義ト心得ラルヘシ

○鐵道課員所屬變更ノ件

(明治二十八年九月二十日)
(總督命令)

元臨時鐵道隊ヨリ派遣シタル遞信省官吏及陸軍省雇員當府雇員(公務ヲ帶ヒ一時内地ニ出張スル者ハ在臺ト見做ス)ハ別ニ辭令ヲ用ヒス本日ヲ以テ當府附ヲ免シ臨時臺灣鐵道隊附ヲ命ス
但鐵道事業ニ從事スル諸職工ハ本日ヲ以テ鐵道隊ニ引渡シタルモノト心得ヘシ

○陸軍ニ於テ通譯ニ從事スル者ノ待遇ノ件

(明治二十八年十月五日勅令第一三九號)

陸軍ニ於テ官吏ニアラサル者ヲ通譯ニ從事セシムルトキハ其ノ月俸六拾圓以上ノ者ハ奏任官ノ待遇トシ六拾圓未滿ノ者ハ判任官ノ待遇トナスコトヲ得

第九編 褒賞勳章

○明治二十七八年ノ戰役ニ關シ賜フ一時賜金軍事公債證書ヲ以

テ交付ノ件

(明治二十八年十月三日勅令第一三七號)

明治二十七八年ノ戰役ニ關シ賜フ一時賜金ハ受給者ノ便宜ヲ圖リ軍事公債證書額面ヲ以テ交付スルコトヲ得其ノ公債證書ノ購入ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム但五拾圓未滿ノ端數ハ此ノ限ニ在ラス

○軍人軍屬公務ニ起因シタル傷痍疾病治癒ノ後再發シタル者治

療ノ件

(明治二十八年十月五日勅令第一四〇號)

軍人軍屬ニシテ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又

ハ疾病ニ罹リ加療治癒ノ後三箇年以内ニ該傷痍疾病再發シタル者陸海軍病院へ入院治療ヲ出願スルトキハ該傷痍疾病ノ爲メ恩給又ハ手當金ヲ受ケサル者ニ限り特ニ許可スルコトヲ得其ノ入院中ノ諸費ハ官給トス

其ノ出願ノトキ既ニ軍人軍屬ニアラスト雖前項ニ該當スル者亦同シ

○明治二十七八年從軍記章條例

(明治二十八年十月九日勅令第一四三號)

第一條 明治二十七年二十八年ノ戰捷ヲ表章スル爲メ特ニ從軍記章ヲ設ク

第二條 從軍記章ハ敵軍ヨリ奪獲シタル大礮ノ地金ヲ以テ製造ス其

圖式左ノ如シ

章 銅、寶珠ノ形豎一寸一分横一寸表面ニ菊御紋及陸軍聯隊旗ト

海軍軍艦旗ト交叉シタル圖、裏面ニ明治二十七八年從軍記章

ノ十一字ヲ識ス

鈕 銅、飾版ヲ附ス

綬 織地、幅一寸二分中央白兩縁綠

第三條 從軍記章ハ左ニ掲クル者ニ授與ス

一 明治二十七年二十八年ノ戰役ニ於テ大本營ニ從屬シ又ハ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ在リシ者

二 同役ニ於テ出征軍ニ編入セラレサルモ戰地ニ在テ軍務ニ從事

シタル陸海軍軍人軍屬若クハ文官

但傭役人夫ノ類ハ授受ノ限ニ在ラス

第四條 第三條ニ掲クル者ニ該當セスト雖同役ノ軍務ニ從事シ若クハ之ヲ幫助シタル者ニハ特ニ從軍記章ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 第三條第四條ニ該當スル者ト雖開戦以後左ニ掲クル事項ノ

- 一ニ該當スル者ニハ從軍記章ヲ授與セス
- 一 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 輕禁錮ノ刑ヲ受ケ剝官ヲ附加セラレ若クハ官職ヲ失フタルトキ
- 三 懲戒處分ニ依リ免官セラレタルトキ

但處刑又ハ免官ノ後同役ノ軍務ニ從事シタル者ニハ特ニ之ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 從軍記章ノ褫奪及佩用停止ニ關シテハ明治十六年第二十二號布告ヲ適用ス

第七條 從軍記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス

第八條 從軍記章ヲ授與セラルヘキ資格ヲ有スル者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其遺族ニ付與シテ保存セシム

第九條 從軍記章ヲ授與セラレタル者ノ名簿ハ賞勳局ニ於テ之ヲ保存ス前條ニ依リ從軍記章ヲ付與セラレタル者ノ名簿亦同シ

第十條 從軍記章ノ奏請及授與ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

明治二十七八年從軍記章ノ圖ハ之ヲ畧ス

佩用式

一明治二十七八年從軍記章ハ綬ヲ用弁テ左肋ニ佩フ

勅令第四百十三號參照

第二十二號布告(明治十六年六月二十九日)

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アル時ハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋責付セラレタル時ハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ス又之ニ屬スル禮遇特權及年金ヲ受ルコトヲ得ス

○今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ疾病ニ

罹リタル者ニ對シテ特別賜金取扱ノ方法 (明治二十八年十月二十四日 陸軍省令第二〇號)

第一條 陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務

ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタル者ノ遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受

ケ若クハ疾病ニ罹リ癱疾不具トナリタル者等ニシテ軍人恩給法官

吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタル者又ハ明治二十

七年勅令第六十四號ニ依リ扶助料及手當金ヲ受ケタル者ニ給ス

ヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此ノ規程ニ依ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ハ軍人恩給法施行規則第五

條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規

則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治二十七年勅令第百六十四號手當金給與ノ辭令書ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキ者ニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スル者ニハ該手當ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書ヲ以テ交付シ五拾圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ

於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルトキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ

第六條 軍事公債證書ノ價格ハ總テ額面ヲ以テ算ヘ

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ陸軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限りニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキ者死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ通帳記名ノ變更ヲ陸軍省ニ願出ツヘシ

第九條 此ノ規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル後傷痍疾病再發若クハ

増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモ之ヲ給スルコトナシ

第十條 第三條第四條ノ者ニシテ已ニ恩給證書扶助料證書又ハ手當金等交付又ハ支給シタル者ハ各書類ニ依リ調査シ恩給證書扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付セシ地方廳及手當金ノ辭令書ヲ交付セシ師團司令部又ハ屯田兵司令部ヲ經テ支給方取計フモノトス

○明治二十七八年戰役ニ關シ功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金

取扱ノ方法

(明治二十八年十月二十四日
陸軍省令第二二號)

第一條 明治二十七八年戰役ニ關シ功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金ハ二十八年勅令第三百三十七號ニ依リ海軍省ニ於テ處理スヘキ者

ヲ除クノ外陸軍省ニ於テ交付ノ手續ヲ爲スヘシ但シ地方受給者ニ對シテハ其地方廳ヲ經テ交付スヘシ

第二條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ陸軍省ニ願出ツヘシ但シ地方廳ヲ經テ交付シタル者ニ在リテハ其廳ヲ經由シテ差出スヘシ

第三條 前條交換請求ハ受領ノ當日限リトス

陸軍省令第二十二號參照

勅令第三百三十七號(明治二十八年十月三日官報)

明治二十七八年ノ戰役ニ關シ賜フ一時賜金ハ受給者ノ便宜ヲ圖リ軍事公債證書額面ヲ以テ交付スルコトヲ得其ノ公債證書ノ購入ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム但五拾圓未滿ノ端數ハ此ノ限ニ在ラス

○戰死者等ノ遺族及負傷者ニ對スル特別賜金支給ノ方法

(明治二十八年十月二十四日)
海軍省令第四號

第一條 海軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタル者ノ遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ癱疾不具トナリタル者等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタル者又ハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受ケタル者ニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此ノ規定ニ依ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規

則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治二十七年勅令第六十四號手當金給與ノ金額ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキ者ニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スル者ニハ該手當金ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書額面ヲ以テ交付シ五拾圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領

人ニ於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルトキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ

第六條 特別賜金ハ總テ所管地方廳ヲ經テ支給ス所管地方廳ハ適宜之ヲ本人ニ交付シ其受領書及調印シタル貯金預入申込書ヲ海軍省ニ送付スルモノトス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ海軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限りニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキ者死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ

通帳記名ノ變更ヲ海軍省ニ願出ツヘシ

第九條 此ノ規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル後傷痕疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモ之ヲ給スルコトナシ

第十條 第三條第四條ノ者ニシテ已ニ恩給證書扶助料證書及辭令書又ハ手當金等交付又ハ支給シタル者ハ各書類ニ依リ之ヲ調査シ支給方取計フモノトス

陸軍省令第二十號
海軍省令第四號 參照

明治二十七年九月八日官報勅令第六十四號ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍雇員軍艦乗組傭人官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其他陸海軍傭人等ニシテ公務ノタメ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルキ一時限手當金給與ノ件ナリ

○臺灣ニ文官ノ職ヲ奉スル者ニ賞典勳章等授與 (明治二十八年八月十七日閣議決定)
 臺灣事務局總裁具申ノ件ヲ案スルニ臺灣ニ文官ノ職ヲ奉スル者モ他日賞典勳章記章等附與ニ關スル議有之節ハ武官ニ準シ詮議ニ相成タシト云フニアリ案スルニ賞典勳章授與ニ付テハ文武各其勳勞ニ對シ詮議可相成ニ付文官ヲ以テ特ニ武官ニ準スルノ必要ナカルヘク臺灣總督稟議ノ要旨ハ必竟文官モ亦從軍者トシテ其勳績ヲ認メラレタシト云フニ外ナラスト思考ス而テ臺灣派遣文武官ヲ以テ今回ノ事局結了ニ至ル迄外征從軍者ト認ムルノ件ハ既ニ閣議決定相成タルニ付テハ本件モ亦右閣議ノ範圍内ニ在ルモノトシ具申ノ通決定ス

第十編 風紀

○支那服着用禁止 (明治二十八年六月二十二日民政局長達)

當局員中ニ於テ支那服ヲ着用スルモノモ有之候趣相聞候處右者風紀ヲ紊亂スルノミナラス大ニ威信ヲ失墜スルノ虞レモ有之其邊各自ニ於テモ夫々心得モ可有之候得共爾後右等ノ不都合無之様部下へ漏ナク諭示可有之候也

○姿勢取締 (明治二十八年六月二十二日民政局長達)

本島ノ炎熱ハ之ヲ寒暖計ニ徴シ既ニ華氏ノ九十餘度ニ昇リタルヲ以テ其氣候ニ慣レサル内地人ノ困難ハ固ヨリ諒察スル所ナリト雖モ如

何セン姿勢ノ紊亂ハ當廳ノ威嚴ニ關シ其影響少ナカラス殊ニ裸体ノ如キ醜体ヲ露ハスノ甚シキハ風俗取締上ニ於テ默許ニ難附候條各自此意ヲ体シ今後裸体不相成ハ勿論角袖ノモノハ自己ノ室内ヲ除クノ外毎日午前八時ヨリ日没迄ノ間ハ袴着用致スヘキ様部員ヘ示達可有之候也

○人夫ノ非行矯正服裝注意

(明治二十八年六月十二日公達)

人夫中近來民家ニ闖入シ財物ヲ掠奪シ若シクハ不法ノ行爲ヲ爲ス者有之旨訴出ル者往々有之候處右ハ啻ニ我軍隊ノ風紀ヲ紊亂スルノミナラス帝國ノ威信ヲ失墜シ國家ノ名譽ヲ汚損スルノ甚シキモノニ付

將來ハ各部各團隊長ニ於テ相當ノ取締法ヲ設ケ是等ノ弊ヲ矯正スルヲ勉ムヘシ

又人夫ノ服裝ヲ濫リニシ一定ノ被服ヲ着ケス若クハ裸體ニシテ屋外ヲ歩行スル者等ハ共ニ風紀上不都合ノ次第ニ付將來ハ必ラス一定ノ法被股引ヲ着セシメ且裸體ヲ嚴禁スヘシ之ニ違フ者ハ憲兵ヲシテ引致シ嚴ニ處斷セシム

○銃器携帶ノ禁止

(明治二十八年七月二十四日
民政局長達)

民政局員中銃器ヲ携帶シ市街ヲ徘徊シ或ハ銃獵ヲ爲スモノ有之趣就テハ自今右様ノ者見當リ候ハ、其携帶ノ銃器ヲ取上ケ且ツ場合ニ依

リテハ軍法ニ據リ嚴重處罰セララルヘキニ付以後心得違無之様各自ニ於テ注意セララルヘシ

○股ヲ顯ハシ外出ノ禁止 (明治二十八年八月五日公達 違警罪目)

内地人ハ股ヲ顯シ戶外ニ出ツルコトヲ禁ス違フ者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一編 土人管理

○諭告文揭示方 (明治二十八年十一月十四日 訓第二三號)

一般人民ニ出示スヘキ諭告文等ハ自今片假名交リ文ヲ以テ本文トシ之ニ漢譯ヲ添付シテ揭示スヘシ

○臺灣及澎湖列島住民退去條規 (明治二十八年十一月十八日 日令第三五號)

大日本國皇帝陛下ノ全權辨理大臣ト大清國皇帝陛下ノ全權大臣ト下ノ關ニ於テ記名調印シタル日清媾和條約第五條ニ曰ク日本國へ割與セラレタル地方ノ住民ニシテ右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セムト欲スル者ハ自由ニ其ノ所有不動産ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ヘ

シ其ノ爲メ本約批准交換ノ日ヨリ二箇年間ヲ猶豫スヘシ但シ右年限
 ノ滿チタルトキハ未タ其ノ地方ヲ去ラサル住民ヲ日本國ノ都合ニ因
 リ日本國臣民ト視爲スコトアルヘシト依テ本總督ハ本島ヲ退去セムコ
 トヲ希望スル者ノ爲メニ臺灣及澎湖列島住民退去條規左ノ通相定ム

第一條 臺灣及澎湖列島住民ニシテ本地方ノ外ニ轉居セント欲スル
 者ハ累世ノ住民ト一時寄留ノ住民トニ論ナク其郷貫姓名年齡現住
 所不動産等ヲ記載シ明治三十年五月八日以前ニ臺灣總督府ノ地方
 官廳ニ届出ヘシ其提携スル家族ニ就テモ亦同シ

第二條 幼者ノ戸主及他方ヘ旅行中ノ者ハ後見人管理人又ハ代理人
 ニ於テ退去ノ届出ヲ爲スコトヲ得

第三條 土匪暴徒ノ擾亂ニ與ミシ官軍ニ抗抵シタル者ト雖モ歸順降
 服シテ兵器ヲ納メタル上ハ本島地ヲ退去スルコトヲ許ス

第四條 本地ヲ退去スル者ノ携帶スヘキ家財ニ就テハ總テ海關稅ヲ
 免除ス

○同譯文

臺灣總督海軍大將伯爵樺山

爲

剴切曉諭事茲據

大日本國大皇帝
大清國大皇帝

特簡兩國全權大臣在下之關所議定媾和條約第五條云此

次

大清國割讓于

大日本國之地方居民意欲遷徙該地域外者本條約批准互換後限二年內准各將產業隨便變價而後退去倘有過限不去者或視以爲

大日本國臣民等因本總督爲退去者便益起見特定臺澎居民退去章程臚列于左爾民人等一體知悉凜遵勿違切々特諭

第一條 臺澎居民意欲退去者不論久居暫住自今至明治三十年五月八日爲期均應將貫籍姓名年歲居址以及產業等項詳細開載稟報所管地方官廳如有家眷亦須明晰造報

第二條 家主年幼暨遠遊未還者該管家之人應照前條稟報地方官廳

第三條 雖爲匪徒曾抗官軍者倘悔前愆實心歸順呈繳兵器仍准退去

第四條 退去者應帶物一件一併蠲免關稅

○保良局章程抄 (明治二十八年八月八日通知)

一保良局原爲保良而設局中諸紳董當能善體此意急公好義其應辦事宜專以伸冤劈訟救良極善爲念凡民間禮物酬謝一概擯棄以杜情弊

一此次辦理保良事出仁義斯後凡我在局紳董咸知仁者恕也所有前嫌舊怨概行解釋誓不敢以公報私

一該局僅請試辦兩個月係各紳董踴躍奉公不敢希望脩金至局中經費願就各紳富擁損若限滿後政府欲再接連續辦一切脩金經費當由政府另行妥議籌撥

- 一 諸紳董或遠處十數里之外或家中有事或倏沾微疾致不能常川到局者該值日公事准由當日所集諸董事名數妥議辦理
- 一 除禮拜日外每日訂自十點鐘到局至十二點鐘散議
- 一 各街市鄉村准由總局紳董僉舉該地公正之人設立分局以便上惠得以下施下情得以上達
- 一 凡民間詞訟在局紳董不得干預倘事關身家性命之大冤抑者准由分局公正之人投訴總局而總局紳董查實代為稟求政府俯准紬察斯免是非顛倒草菅人命
- 一 各街衢鄉村遇有匪徒槍奪銀物或聚黨煽亂准由分局投訴總局代為稟明派兵拏獲或該地良民拏獲再請派兵押送

- 一 各保各屬應設分局當試辦兩個月為費無幾應由各庄紳富之好義者捐資襄辦或由房租或各庄佃斛抽津貼要無不可
- 一 莫論總局分局所有試辦兩個月經費若干雖議由各紳富捐給然亦祇准核實數目足供敷演為度
- 一 在局紳董請各給門牌護照禁止兵丁軍屬非因公事勿得亂入其家斯奉公事者無私家之患

○保良局章程抄 (譯文)

一 保良局ハ固保良ノ爲ニ設ク局中ノ諸紳士善ク此意ヲ体シ公義ヲ先シ專ラ冤ヲ伸ヘ誣ヲ劈キ良ヲ救ヒ善ヲ拯フノ目的ヲ以テ事務ヲ處

- 一 辨シ凡テ人民ノ謝禮報酬等ハ一切之ヲ退ケ以テ弊限ヲ防ク
- 一 保良局ノ事務ヲ處理スルニ仁義ノ誠心ニ出ルヲ以テ局中ノ紳士ハ其事務處辨上誓テ前嫌舊怨ヲ以テ私ニ報スルヲ許サス
- 一 當局ハ先ツ二箇月間試辨シ其費用ハ各紳士ノ義捐ニ出ルヲ以テ敢テ報酬ヲ要セス二箇月後ハ政府ノ意見ニヨリ存廢シ其經費支出ノ如キモ政府ノ許可ヲ受クルモノトス
- 一 諸紳士或ハ遠方ニ居住シ或ハ家事上不得止事情或ハ病氣ノ爲欠席スル時ハ當日ノ公事ハ諸紳士ニ由リ協議決定ス
- 一 日曜日ヲ除ク外毎日午前十時ヨリ正午十二時迄ヲ執務時間トス
- 一 總局紳士ハ各市鄉村ニ公正ノ人ヲ撰舉シテ分局ヲ設ケ官意民情

ノ通達ヲ便ニス

- 一 凡テ民間ノ訴訟ハ局員預ルコトヲ得ス若シ財産生命冤罪ニ關スル時ハ分局公正ノ人ニ由リ總局ニテ審査ノ上政府ニ上申シ冤罪ヲ免レシム
- 一 各街市鄉村ニ土匪ノ金錢物件ヲ強奪シ或ハ凶徒ヲ嘯集スルコトアラハ直ニ分局ヨリ總局ニ訴ヘ總局代テ政府ニ上申シ兵士ヲ派遣シテ捕縛ス或ハ人民ニ於テ捕縛ノ上兵士ニ請フテ護送セシム
- 一 各所ニ分局ヲ設ケ二ヶ月間試辨中ノ費用ハ紳士豪族ノ義損金ニ依ル但シ其割前ハ或ハ家賃或ハ小作料ノ收入ヲ目安トナスモ差支ナカルヘシ

一總局ト分局トヲ論スルナク試設二ヶ月間ノ經費若干圓ハ各所富家ノ義損ニ由ルヲ以テ凡テ實費ノ支辨トス
 一局中ノ紳士ハ各門札下付ヲ政府ニ請求シテ兵士軍族等ノ公事外漫ニ其家ニ入ルコトナカラシメ以テ奉公ノ局員私家ノ爲メ顧慮スルコトナカラシム

○生蕃接遇ノ件

(明治二十八年八月二十六日訓示)

作戰ノ進捗ニ從ヒテ賊徒日ニ窘蹙シ全島ノ鎮定ハ當ニ日ヲ期シテ待ツヘシト雖戰鬪區域ノ擴張ト守備ノ完成トニ伴ヒテ我斥候若クハ哨兵生蕃トノ間ニ衝觸ナキヲ保セス抑生蕃ノ性タル極メテ矇昧愚魯ナ

リト雖亦固信ノ風ヲ存セリ其一タヒ彼カ心ニ惡感情ヲ懷カシメンカ後日之ヲ挽回スルノ途ナカラシ即チ彼ノ二百年來支那人ヲ仇敵視シテ敢テ反抗セルハ好例證ト謂フヘシ蓋シ本島ヲ拓殖セントセハ必ス先ツ生蕃ヲ馴服セシメサル可ラス生蕃ヲ馴服セントスルニハ勉メテ綏撫ヲ主トシ威力ヲ用ユルヲ避ケサル可ラス而シテ今ヤ實ニ其時機ニ際會セリ若夫レ生蕃ヲシテ本邦人ヲ視ルコト猶支那人ノ如クナラシメンカ本島拓殖ノ業ハ大ナル障礙ヲ被ランコト必セリ故ニ本總督ハ專ラ綏撫ヲ主トシ以テ其効果ヲ他日ニ収メント欲ス各官ニ於テモ亦須ラク此意ヲ體シ各其部下ニ訓戒シテ生蕃接遇ノ途ヲ誤ルコトナカル可シ

○臺北縣事務取扱人假規則 (明治二十八年七月二日 臺北縣通知)

第一條 臺北縣直轄ノ市街及堡庄ノ事務ヲ整理スルタメ當分各堡ヲ數區ニ分チ每區左ノ職員ヲ設ク

事務取扱人 壹人
全 補助 壹人

第二條 事務取扱人及補助ノ俸給ハ左ノ如シ

事務取扱人 月俸金拾五圓以上貳拾圓迄
全 補助 拾圓以上拾五圓迄

第三條 事務取扱人及補助取扱フヘキ事項ハ大略左ノ如シ

第一項 告示ノ出ル毎ニ遍ク人民ニ其旨趣ヲ懇諭シ其實行ヲ計ル

ヘシ

第二項 衛生法ヲ勵行シ道路溝渠等ヲ清潔ニスヘシ

第三項 戶籍ヲ調査シ現住寄留等ヲ詳明ニスヘシ

第四項 地租及諸稅ヲ整理スヘシ

第五項 人民ノ願伺書ニ調印スヘシ

第六項 市街及堡庄ノ共有財産ヲ管理スヘシ

第七項 農工商ヲ勸獎スヘシ

第八項 學校ヲ建設シ教育ヲ獎勵スヘシ

第四條 事務取扱人ハ當分自宅ヲ以テ事務所ニ充テ全補助ト共ニ每日午前第九時ヨリ午後第四時マテ執務シ且隨時縣廳ニ出頭ス可シ

（明治二十八年十一月一日）
（日令第三三號）
○清國人臺灣上陸條例
第一條 臺灣ニ於テ清國人ノ上陸シ得ルノ地ハ左ノ四個所トス
基隆港
淡水港
安平港
打狗港
第二條 清國人ニシテ商業其他私用ノ爲メ臺灣ニ上陸セント欲スル
モノハ其郷貫姓名職業年齢及ヒ渡航ノ目的ヲ記載セル清國當該官
廳ノ旅券或ハ證明書ヲ携帯スヘシ

第十二編 雜

○清國人臺灣上陸條例

（明治二十八年十一月一日）
（日令第三三號）

第一條 臺灣ニ於テ清國人ノ上陸シ得ルノ地ハ左ノ四個所トス

基隆港

淡水港

安平港

打狗港

第二條 清國人ニシテ商業其他私用ノ爲メ臺灣ニ上陸セント欲スル

モノハ其郷貫姓名職業年齢及ヒ渡航ノ目的ヲ記載セル清國當該官

廳ノ旅券或ハ證明書ヲ携帯スヘシ

第三條 清國官吏又ハ清國政府ノ公用ヲ帶ヒ臺灣ニ上陸セントスル

清國人ハ清國政府ヨリ派遣ノ通告ヲ以テ上陸ノ權アルモノトス

第四條 清國官廳ノ旅券或ハ證明書ヲ携帶スルモノハ上陸地ニアル

地方官廳ノ検査ヲ經テ上陸許可證ヲ受クヘシ

第五條 臺灣ノ安寧秩序ヲ維持スルカ爲メ當分ノ内清國人ノ勞働者

及ヒ一定ノ職業ナキモノ、上陸ヲ禁ス

第六條 從來臺灣ニ居住セルモノニシテ臺灣清國間ヲ往來スルモノ

ハ臺灣總督府ノ地方官廳又ハ在清國日本領事館ノ證明書ヲ有スル

モノニ限リ清國官廳ノ旅券若クハ證明書ヲクシテ上陸及ヒ居住ス

ルコトヲ得

第七條 第三條及ヒ第六條ニ記載シタルモノヲ除クノ外清國人ニシ

テ臺灣ニ上陸ノ許可ヲ得タルモノハ第一條ニ定メタル四個所ニ限

リ居住スルコトヲ得若シ其區域ヲ越ヘ臺灣内地ヘ旅行セント欲ス

ルトキハ臺灣總督府地方官廳ニ内地旅行券ノ下附ヲ請フヘシ

第八條 本條例ハ明治二十九年一月一日ヨリ實施ス

○全文譯文

第一條 自今臺灣一帶沿岸。不准清國人隨意上陸。唯限左開四口岸。任其來往懋遷。

一基隆口

一淡水口

一安平口

一打狗口

第二條、清國人爲有貿易或私事。擬來航臺灣者。必須帶清國地方官廳所發給之執照。或明註鄉貫姓名年歲業務。以及來航主意等護照。

第三條、清國官吏。並清國政府差委。均先經清國政府之照會。始得上陸。

第四條、凡隨帶清國官廳所發給之執照。或護照者。送呈該地方官廳。查驗之後。再給執照。准其上陸。

第五條、目下暫時無賴苦力等類。一體嚴禁上陸。以保臺灣良民之安寧。

第六條、現在居住臺灣。往來清國沿岸商民。隨帶臺灣總督府所管地方

官廳。並駐在清國日本領事館所發給之護照者。無帶清國官廳之執照或護照。准其隨便上陸居住。

第七條、除在第三條。及第六條範圍內者之外。所有清國人隨帶上陸執照者。以第一條所定四口岸爲限。任其居住。又如踰此定限。應由稟請地方官廳。給發執照。准其游歷臺灣諸鄉。

第八條、本條例。定於明治二十九年一月初一日實行

○土地賣買ニ關スル届出方

(明治二十八年九月二十一日
臺北縣告示第十四號)

土地ノ買買ハ政府之ヲ登記證明シ以テ其所有權ヲ保護スルヲ例トス然ルニ本島ハ從來登記法ノ不完全ナリシ爲メ或ハ現所有主ト官簿登

記ノ所有者ト相異ナルモノ等アルハ勿論地主田主ノ區別アリテ其賣
買契約上特種ノ慣例ヲ成シ彼此分歧錯綜シテ容易ニ公證スヘカラス
本縣開廳日尙淺ク且百事革新ノ際未タ土地臺帳ヲ整理シ其賣買ヲ登
記スルノ運ニ至ラス然レトモ依然人民相互ノ契約ノミニ一任シテ毫
モ之ヲ與知セサルニ於テハ益々所有者ヲ不分明ナラシメ將來登簿徵
租等困難ナルハ勿論爲メニ民間所有權ノ紛爭ヲ生セシムルモ難計義
ニ付内地人ト本島人トヲ問ハス明治二十八年六月一日以降土地ノ賣
買ヲ契約シタルモノハ來ル十一月三十日迄ニ又今後ノ賣買ニ係ルモ
ノハ契約後十五日以内ニ賣買双方ヨリ契券及契約書類ヲ該土地所管
ノ地方廳(本廳及各支廳)ニ持參シテ届出ヘシ

○同 譯 文

照得賣買土地之例登記公冊以防混侵然本島從來所行登記法頗缺周全
現有地主或田主而與官府底簿不相符合暨有大租戶小租戶等之別而賣
買立約慣習不一彼此錯雜無章以供公證者往往而有之此向來官民均不
留意清理之故也本縣下車伊始爲日尙淺況政務革新之秋未輒得整理官
簿而登記土地之賣買然如今仍一住民人私相立約並無來縣呈驗則來歷
愈不明或登記納租等難保無有錯誤或重複典賣等不免致生訟端是以不
論何人從明治二十八年六月一日以來已經成約賣買者須限本年十一月
三十日又日後賣買者限立約後十五日賣買兩下帶來文契及地契而稟報
本廳或該地方所屬支廳必不令奸狡得計而使小民負累莫伸也爲此特示

○民政局地方廳備員以下採用届出書式 (明治二十八年十一月二十二日) 訓第二六號
臨時雇採用届

發令月日	給		住	所	族籍	姓	名	生年月日
	日	月						

右及御届候也

年月日

縣知事(支部長)(島司)(支廳長)(出張所長)

民政局長宛

事務ニ從事セシムルモノト給仕小使等ノ事務外ニ使用スルモノトハ別表ニスヘシ

○銃獵免狀雛形 (明治二十八年十一月二十八日) 大島參謀長通牒

銃獵ノ儀ハ新竹以北ノ地ニ限り本年十二月一日ヨリ來ル二十九年四月三十日迄許可相成銃獵免狀雛形左記ノ通定メラレ候間此段及御通牒候也

(面 表)

民第何號
本籍住所身分職業
明治何年何月何日下付氏名年齢
銃獵免狀
自明治何年何月何日
至明治何年何月何日

民政局

罌巾凡三寸五分横巾凡二寸五分紙質厚紙

(面 裏)

- 一日出前日没後又ハ銃丸ノ達スヘキ建物船舶車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス
- 一左ニ掲ケタル場所ニ於テ銃獵ヲ爲スヘカラス砲臺附近市街人家稠密衆人群集ノ場所欄柵圍障ヲ設ケ又ハ作物植付アル他人ノ所有地但シ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス
- 一出獵ノ際ハ銃獵免狀ヲ携帶シ守備隊憲兵並ニ其巡邏兵又ハ警察官ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ
- 一右ノ規則ニ違背シタル者ハ免狀ヲ取揚グヘシ

○病氣歸國ニ關スル件 (明治二十八年七月二十五日 臺北縣廳へ通牒)

御部下吏員ニ於テ病氣ノ爲メ歸國ノ義願出候者往々有之哉ニ相聞ヘ候處右等ノ場合ニ於テハ陸軍所管ノ病院ニ移シ同病院ニ於テ果シテ歸國ノ上治療セシムルノ必要アルトキハ同病院ヨリ歸航セシムルノ手續ニシテ本人ノ出願ニ依リ貴官ニ於テ濫リニ許否スヘキモノニ無之候條將來不都合無之様御注意可有之此段申進候也
追テ病者ト雖辭職ノ上歸國スル場合ハ右ノ手續ニ依ルヲ要セス候間此段申添候也

○死亡疾病及後送者ノ報告方 (明治二十八年十一月二十七日 訓第三八號)

其廳吏員中死亡疾病及後送者有之節ハ別紙様式ニ據リ報告スヘシ

(別紙)

死亡(後送者)報告

月日	病名	摘	要	官姓名	遺族住所姓名
		何月何日ヨリ何病ニ罹リ何病院へ入院治療中何月何日死亡			
		何月何日ヨリ何病ニ罹リ何病院へ入院治療中何月何日後送			

右及報告候也

年月日

縣知事(支部長)(島司)(支廳長)(出張所長)名

民政局長宛

(備考) 死亡者ニ在リテハ遺族住所姓名後送者ニ在リテハ内地住所ヲ詳記スヘシ○死亡報告ニハ履歷書醫師ノ死亡證書埋(火)葬證書ヲ添付スヘシ○本報告書ハ事實ノ生シタル日ヨリ一週間以内ニ差出スヘシ

疾病者報告

病名	摘	要	官	姓	名
	何月何日發病				
	何月何日發病				

右及報告候也

年月日

縣知事(支部長)(島司)(支廳長)(出張所長)名

民政局長宛

(備考) 本報告ニ掲載スヘキ者ハ疾病ノ爲ニ週間以上引續キ引籠リタルモノニ限ル○本報告ハ毎月末日調ヲ翌月二日限差出スヘシ

明治二十九年一月二十日印刷

明治二十九年一月廿五日發行

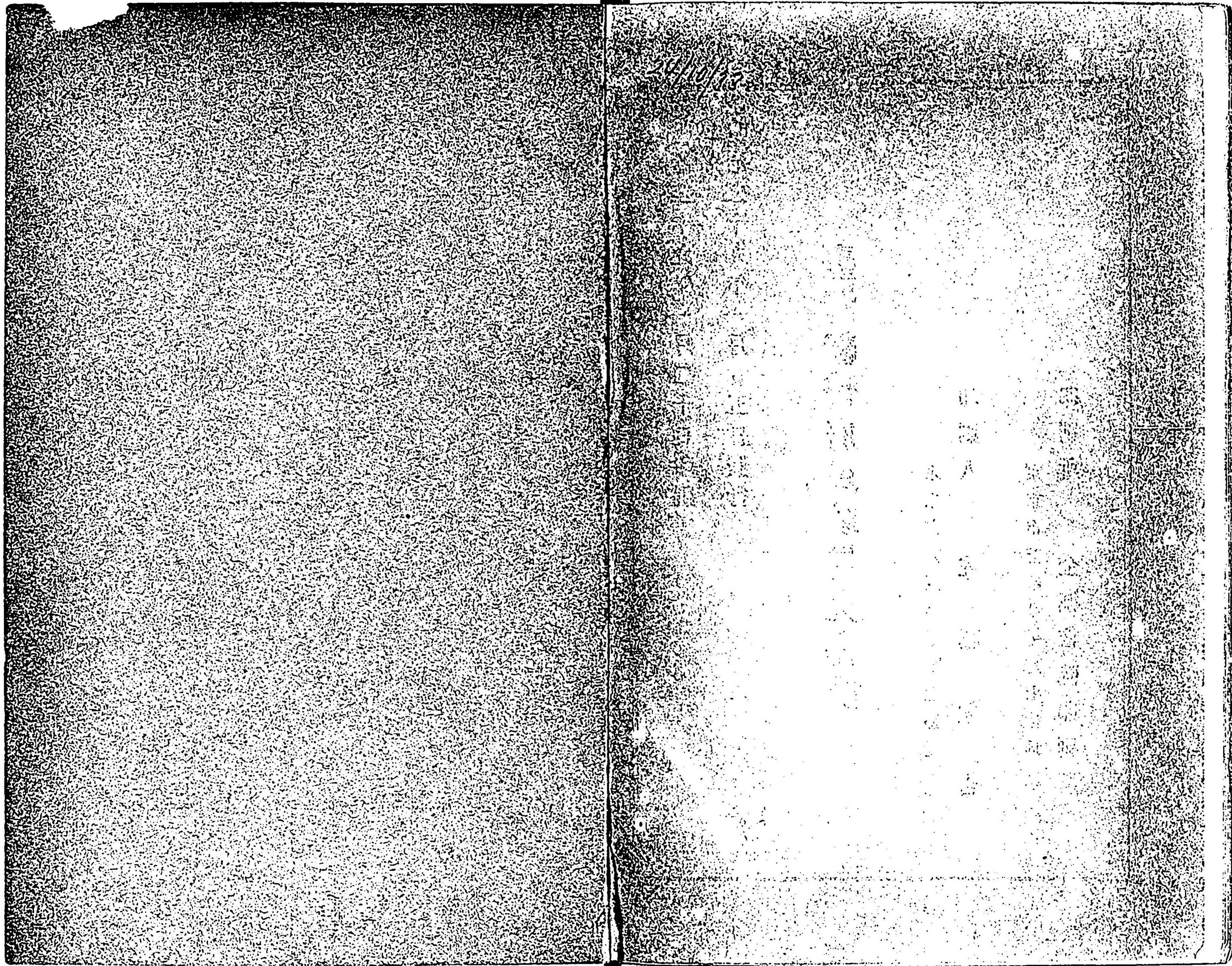
臺灣總督府民政局文書課

東京市芝區琴平町七番地

印刷人 佐藤鍋吉

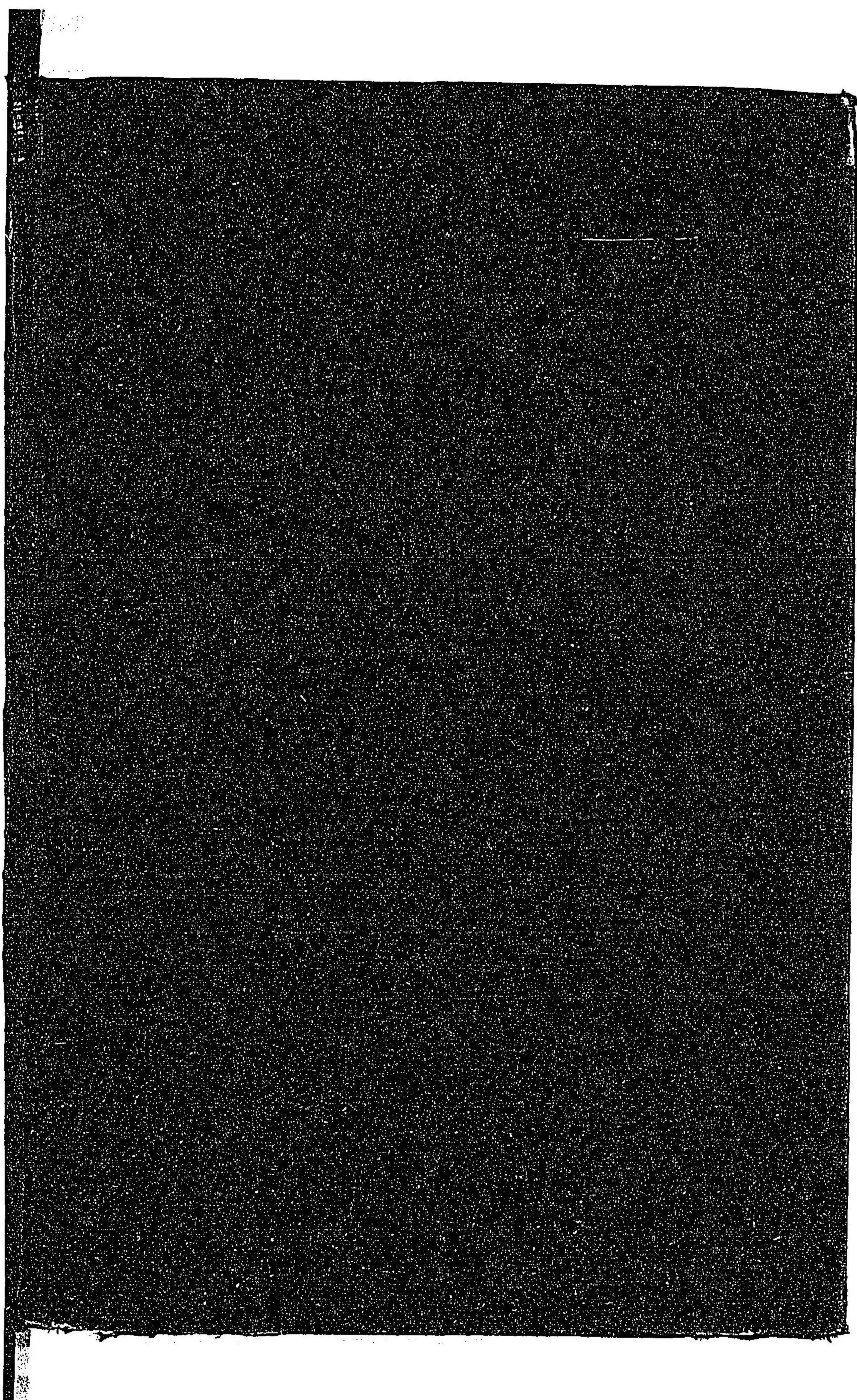
東京市芝區琴平町七番地

印刷所 金城書院印刷所



72

322



禁電子式複写

031037-000-2

CZ-13-B-3

台灣總督府例規類抄

(改訂增補)

台灣總督府

M29

BBC-0530



